

No	概要				発生の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況			事故状況		事故発生の要因分析														掲載更新年月日																						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生の体制							年齢	性別	特記事項	発生時状況		ソフト面			ハード面				環境面			人的面																									
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策																
1366	平成29年6月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4 1.朝(始業～午前10時頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	61	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	6	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施							1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	200	芝生の上でも、転倒時のリスクを配慮して遊ぶ必要がある	園庭を芝生化しているが、転倒の仕方は本人の訴えや、異常が判見できなかった	1.集団活動中・見守りあり	園児の転倒後の確認をするが、本人の訴えや、異常が判見できなかった	芝生の園庭であるが、転倒による重大事故になるまで十分な確認がとれていない	1.いっもおりの様子であった	集団の中で元気に遊んでいた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	園児と一緒に受持が、集団でかかっていたのを、転倒時は園児の隣にいた(至近距離)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周囲の遊具で遊ぶ園児も、事故者の様子を気にしていた	園児の転倒後、本人の訴えや、異常が判見できなかった	転倒後は、これまでに園児の様子を確認する必要があった
1367	平成29年6月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59			21	18	20				うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	不定期・随時	1.基準上配置	新しい遊具であったため、過去の事例、危険な使用例などデータが蓄積できなかった	同種の遊具で過去に保育士が感ずる危険性などを事前共有する	1.定期的に実施	不定期・随時	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	不定期・随時	園庭に設置された浅い、新しい遊具であったため、過去の事例を集約するなどして危険な事例を抽出し、適切な設置場所を核対することができなかった	マットを敷く、下を砂場にするなど検討(現在は一時使用中止)	1.集団活動中・見守りあり	園庭に設置された浅い、新しい遊具であったため、過去の事例を集約するなどして危険な事例を抽出し、適切な設置場所を核対することができなかった	1.いっもおりの様子であった	様子はいったままで遊んでいたが、子どもが体を支えきれずに倒れてしまった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	うんていをしていて途中で落ちてしまっただけで、最後まで落ちた様子が見られなかった	うんていには1名の職員がおり、別の職員はそれ以外の場所から見ていた	園児に比べても慣れない遊具であった	渡る際だけでなく降りる時も十分注意するよう指導する					
1368	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	83			22	26	35				うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	5	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷 5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性垂脱臼 5.他児から危香を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	マニュアルの作成もしており、研修も実施している。職員配置にも問題はなかった	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		再発防止が必要なし	3.個人活動中・見守りあり	全体を見ながら子どもを遊ばせている際は危険を予測して止めるようにする。	1.いっもおりの様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	廊下で他の園児と遊んでいた。廊下対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	担当配置場所、他の園児を見守っていた	見守り、声掛けが不足していた	子どもたち方を再確認していく							
1369	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28			9	19					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	5.他児から危香を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	マニュアルの作成もしており、研修も実施している。職員配置にも問題はなかった	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		再発防止が必要なし	3.個人活動中・見守りあり	周りに目を配り、追いかけることを許さずには友達を押さえないよう声をかけ、再発防止に努める。	1.いっもおりの様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	小園庭で他の園児と一緒に遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	室内で他の園児を見守っていた。廊下担当の職員がケガをしているところを廊下から見守る。	見守り、声掛けが不足していた	段差があるところでは気を付けるよう声掛けを行う							
1370	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	55									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準上配置	子どもの行動や活動時の危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	子どもの行動や活動時の危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	12	「安全点検表」を作成し、毎月記録しているが、教育・保育中の安全管理には、施設・設備等の環境整備が必要であることから、随時、環境整備等の措置を講ずることとしている。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの行動や活動時の危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	1.いっもおりの様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	対象児の近くには、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くには、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児自身も安全を確認するよう再度、遊び方を注意することとする。								

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策												
1376	平成29年6月30日	1.認可	6.認可保育所	3.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右母指圧挫傷、右母指末節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	ロッカーのすき間に指を挟むことを想定し、人数、片付けの仕方等に配慮する	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	12	危険箇所を職員全員で点検し、その都度改善していく	1.集団活動中・見守りあり	年1回は業者に点検を依頼しているが、危険箇所は保育士がその都度チェックし修繕する	1.いっもの様子であった	はさみを製作しており、製作が終了した為、使ったハサミをロープに片付けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	製作を終え、片付けを行う子どもを見守っていた。隣同士、近くで片付けたので、気をつけ言葉かけが間に合わなかった。	2.担当児の動きを見ていなかった	製作中の子どもを対応していた為、見ていなかった。	製作時の見守りが十分でなかった。	保育者が活発な危険性を再認識し、見守りできるように配慮する。				
1376	平成29年6月30日	1.認可	6.認可保育所	1.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36	6	8	9	13			6	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上A外傷性歯臼脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	散歩中のマニュアルにある歩行のペースをあわせることに欠けていた。	マニュアルの再確認を行い、歩行のペースをあわせること。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	保育内容、保育状況には問題がないと思われる。	特になし	1.いっもの様子であった	転ぶときに手をつかず顔を打ったことから、咄嗟の動きに弱い傾向があると思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	列の後方を歩いて、走り出したのを見て、「あっ、走った」と思った瞬間、転んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間を見なかった。	散歩を誘導する職員が子ども達の歩く様子をよく見て、歩くペースを配慮し、さらに間隔があいてしまっただけには走らないように声をかけるよう促す。間隔が空いたときは職員が待たずに待つようにする。	また、本児が咄嗟の動きに弱い傾向にあるため、状況に応じて職員と手をつなぐ等の配慮をしていた。	乳児が散歩に行くには人数が多かったと思われる場所でも職員間で把握ができる人数を考慮して散歩に出かけるようにする。
1377	平成29年6月30日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	5.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)											16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(全治2ヶ月)	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未実施		事故対応マニュアルは入会説明時に渡していたが、内容が十分に伝わっていなかった。	事故防止の意識を高めていく為の研修を行う。							3.個人活動中・見守りあり	当該提供会員は施設への送迎を何度か行っているため今回も問題ないと思っていた。	子どもが離れないよう再度伝える。		4.対象児の動きを見ていなかった	保育サービスの職員へお迎えに来た旨を報告していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	提供会員より、お迎えに来た旨の報告を受けていた。							

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故誘因		ソフト面					ハード面					環境面			人的面											
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	死亡	負傷	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていったか	他の職員の動き 具体的に何をしていったか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
1378	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	5	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第一基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアル、研修ともに実施されなかった。	事故予防に関する研修の実施を検討する。	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.中庭には滑り台1つしかなく、児童が集中してしまう状況がある。	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	2.か所以上で児童を遊ばせる場合は、必ず一人は支援員が見守るよう要する。	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの時間、支援員2名、補助員3名で対応していたが、支援員は遊んでいる児童を担当しており、対象児は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	中庭で遊んでいる児童を補助員3名で指導していたが、対象児が遊んでいた滑り台は誰も見えていなかった。	滑り台等の遊具から危険が伴うというため、特に注意して見守りを実施する必要があったが、事故時は見守りを実施しなかった。	遊具の使用には危険が伴うというため、再度確認し、滑り台には常に1名以上見守りを実施する。
1379	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	61	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	5	1	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首刺傷骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルを策定し、事故発生時の予防に努める。	2.不定期	1.定期的	2.不定期	旧幼稚園施設を児童クラブとして活用しており、遊具が低年齢児童を対象としたものとなっている。本件児童は身長が高く、手足が長かったため遊具が体に合っていなかった。	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	多くの異年齢児童が一緒に過ごす長期休暇中などにおいては、遊ぶ児童を学年等で調整し、均等に職員が目が行き届くようにする。	1.いつも通りの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見ていたもの、主に同遊具を利用する児童に注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内において他の児童を見守っていた。	多くの異年齢児童と一緒に過ごす長期休暇中などにおいては、遊具で遊ぶ児童を学年等で調整し、均等に職員が目が行き届くようにする。		
1380	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	41	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期	2.基準配置	指導員4人体制を原則として、保育を行う。	2.不定期	2.不定期	2.不定期	遊具を管理している教育委員会との連絡をうまく取る。	3.個人活動中・見守り	3.個人活動中・見守り	児童が危険な動きをしている場合は、注意を見守り活動を行う。	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台近くに他の児童の対応をしていたが、数名が滑り台付近でぶら下がりに遊んでいたことに気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童に対応していたため対象児の動きを見ていなかった。	指導員は外遊びの際の危険性を再確認し、見守り活動を怠らないように配慮する。児童全員に対しては、危険な遊び方・他の児童への接し方について話し合いを行い危険性を共有する。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者				年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面		ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	1人	2人	3人				4人	5人以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1381	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童															その他													
1382	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36								4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	本児が2年生となり初めてベース鬼自身で最後まで残った喜びで、やる気とチャレンジしたい気持ちがあり、支援員の状況判断より高かった。	支援員等が、状況判断力や児童の危険回避能力や防衛力が高まる方について事例研究を行うことで、支援力をより高めていく。	1.定期的 に実施	開館日	1.定期的 に実施	開館日	2.不定期 に実施	ベースに運動マットを使用せず、ラインに変更し壁から離し、ベースの位置とする。	1.集団活動中・見守りあり	終盤で鬼役の児童が来て残り、支援員が鬼役を代行した。 特に、新年生も多く来館する時期なので、夢中になり過ぎないように配慮する。	1.いつもの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	1名が逃げ役として遠くから見ていたが、1名が鬼役として近くで見えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋を見守っていた。	終盤に鬼役の児童が来て、鬼役を代行した。	支援員1名は、必ず全体的な見守りを行っているようにする。	
1383	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.2.午前中	2.施設敷地外(園庭・校庭等)	8.学童	44								6	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	入室当初の学童保育室に慣れない児童への配慮を怠った。	指導員全員で事故危険場所の再確認をし、児童への注意を呼びかける。	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	入室した児童の危険場所(下駄箱付近の段差)への配慮が無かった。	見守りを強化し、危険場所の児童に喚起し、事故防止に繋げる。	テラスの段差が20cmほどあり、新年生にとっては高く、指導員の配慮が十分でなかった。 見守りを強化し、ハットについて指導員全員で確認を行う。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	室内外で見守りの指導員はいたものの、テラス付近で指導員が目視して見守ってなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内外で指導員がバラバラで、児童の事故を未然に防げなかった。	4月から入室した児童への対応が十分で、且つ、テラス付近の危険場所としての認識がなかった。	テラス付近は段差が有る危険場所を指導員が持ち、全学年児童に対し危険場所付近での児童の行動を指導員が注意していく。			
1384	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31								4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	-	事故予防の話合いは行っていたが、今後は事故予防の研修への参加していく。	1.定期的 に実施	250	1.定期的 に実施	25	2.不定期 に実施	24	遊び箱も月2回安全点検をしており問題なかった。	補助員と一緒に遊んでいた3名の子が遊び箱で遊び始めたため、補助員は遊び箱の横について見守っていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	補助員と一緒で遊んでいた3名の子が遊び箱で遊び始めたため、補助員は遊び箱の横について見守っていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室には支援員と補助員の2名がいた。支援員は遊戯室内でままごとして遊ばせていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	遊び箱は併用遊具という危険感が強かったため、支援員ではなすがそばで見守った。	遊び箱で遊ぶときは、支援員がそばに付き添うようにする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況										事故発生の要因分析										掲載更新年月日																										
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因	ソフト面										ハード面										環境面										人的面										
						人数	異年齢構成の場合の内訳						うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況					骨折 受傷部位	診断名	マニユアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか		その他要因・分析・特記事項	改善策																								
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上																														学童	その他																						
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45									5	2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨幹骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	-	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避能力や防衛力が高まる開わり方について事例研究を行うことで、支援力をより高めしていく。	1.定期的 開館日	1.定期的 開館日	2.不定期 に実施	-	遊戯室では靴がすべりやすい状態であったため、遊戯室で靴底をふくよかに磨きあげ、この確認を再度周知する。	1.集団活動中・見守りあり	-	夢中になり過ぎないように、声をかけ活動するよう配慮する。	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	全体を見渡せる位置で、どろいどろいとした動きを見守っていた。	2.担当児の動きを見ていた	お迎えの部屋見守っていた。	-	支援員1名は、必ず全体の声かけを行うようにする。																	
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	6									2	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨幹骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	-	2.基準配置	-	職員間で事故に係る情報共有をし、話し合いを行った。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	-	不可抗力による事故のため改善点なし。	1.集団活動中・見守りあり	-	遊び場所を見直し、より安全な所を選び、より注意して児童の見守りを行う。	1.いっもどりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	-	安全を守るための研修に再度参加(以前には何度も参加した)し、児童の見守り心かげる。																	
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43									4	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指剥離骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	-	支援員は基本通りには配置しており問題はなかった。	1.定期的 に実施	24	24	24	24	グラウンドに落ちた古いタイヤが遊びに使われ、蹴り上げが繋がった。	危険なゴミなどが落ちていないか、グラウンドについても定期的に点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	-	遊びの中で危険な状況がないか、細かな声かけを行うようにする。	1.いっもどりの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	支援員が注意したが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時に当該児童の付近にいた支援員は1名だけだった。	-	児童がグループに分かれて遊んでいる際も、偏りなく見守りを実施する。															
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49									4	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	-	2.基準配置	-	室内で動きのある活動にも関わらず着用していた。	室内で動きのある活動の場合靴下を脱ぎ、徹底する。	1.定期的 に実施	12	12	12	12	今回の事故はハード面に起因するものではないので割愛。	3.個人活動中・見守りあり	室内で動きのある活動にも関わらず着用していた。	室内で動きのある活動の場合約指す。	1.いっもどりの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見た(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見た(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見た(至近距離にいた)	-	保育の中で時間管理を行いルール作りに努める。													
1442	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	-	1.基準以上配置	-	ひやりハットを利用し、機会を見つけて事故予防検討会を持つ。	1.不定期 に実施	1	12	4	4	遊具不良が原因ではないが、常に気配りし、安全を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	点検、環境整備等努める。	戸外遊びが嫌しくて、いっもどりの様子であった。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	担任は園庭の本児の反対側にいたが、反対側を向いて遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の傍にいたが、他児を避け、反対側を向いて遊んでいた。	本児が正しい遊び方ができなかった。	日頃から遊具の正しい遊び方の指導を行う。																	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳											死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
1443	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨々折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 12	2.基準配置	園内の事故事例として、マニュアルに書き込む	1.定期的 12	1.定期的 12			3.個人活動中・見守りあり	遊具で遊ぶ際に気づかずに、改めて子どもに注意した。	1.いっもの様子であった	子どもが自分で登り、恐くなって、急に手を放したよう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた			子どもが怖くなって急ぐことも想定して、子どもを見守る。				
1444	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									3	2	18.6歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 12	1.基準以上配置	修練度の見極めやその日の様子など各園児の状態の把握。 園児の状態の見極めを確実にし、適切な補助体制と環境整備を行う。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	遊具に不備はなかったが、安全面への配慮は行う工夫する	1.集団活動中・見守りあり	低位での鉄棒練習であったため特に大きな危険性を認識していなかった	どのような状態であれ、マットの安全対策を行う	1.いっもの様子であった	外遊び中、鉄棒で遊ぼうとしていた時に手を離してしまったり落ちたまま打ってしまった	隣の鉄棒で他児の補助をしていた際に、手を離せずフォロワーが間に合わなかった	2.対象児に近いところで見守っていた	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	英語教室がちらちら見えていた	午後の活動後であったので、疲れなど体力面の不安など園児の様子を確認した	疲れなど体力面への配慮など、より穏やかな対応を心がける
1445	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足韧带損傷・軟骨剥離	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 6	1.基準以上配置	職員全員が危機管理でマニュアルを再度確認し、事故発生時には速やかに対処できるようにする。また、園内事故対策研修も今までと同様に開催し、職員の危機意識を高める。	1.定期的 12	1.定期的 40	1.定期的 2	園外保育で利用した施設だったが、特に問題はなかった。園外保育先の問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	市外への園外保育ということで、緊急時にも対応できるように、通常より多く職員配置を要があった。	園外保育者の見直し	1.いっもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	公園内で昼食後、担当職員は遊具の近くで遊んでいる園児を見ていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	昼食を食べている園児についていた。	活動が手に分かれたため、より動線把握が必要だった。	園児の活動範囲が広がる際には、園児の動線をとらえて、子どもに合わせた対応できるように気を配る。		
1446	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		2	3						1	1	15.3歳	2.女児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	転倒による左手首下骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	走り出すことを想定していた。事故防止マニュアルを整備し、研修の実施により職員に周知を行う。	1.定期的 3	1.定期的 12	2.不定期 12	靴下のまま遊ばせてしまった。	床で遊ぶ時は上履かき、危険な体勢で遊ばせる。	3.個人活動中・見守りあり	遊具の配置を工夫し、スペースをなくして、うすく遊べる広さを確保する。	1.いっもの様子であった	いつもどおり遊んでいた。	2.対象児に近いところで見守っていた	対象児の近くで一緒に遊んでいた。		保育士が子どもの動きを想定して見守りが不十分だった。	子どもの動きを想定して見守りを強化する。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分折・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分折・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分折・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分折・特記事項	改善策
1447	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50							4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.定期的実施	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	再度、園内外全体の遊具や環境を改めて見回り、リスクとハザードを見極め点検・確認した。また、事故を保護者へお知らせする時や、病院を受診していただく時は特に、言葉の表現に留意するよう徹底する。	1.定期的実施	4	1.定期的実施	4	1.定期的実施	4	1.集団活動中・見守り	本園では、子どもが自分で考え自分の意志で遊び込めるようにし、自己の力量から挑戦や中止を決められる環境を大事にすることで、子どもが真に自信を積み重ねていく。すべり台には登ることもできる遊具として、他の遊具と違うように遊べるように工夫することから子どもも考え合うことを大事にしてきたが、今まで上手に遊んでいた現実に、保育教諭の事故予測への意識が甘くなったことはいずれも取り入れられた。	全職員がハザードをしつかりと見極める視点のため、会議内容の充実や実会への参加を図り、事故予測を保育教諭で共有できるよう努める。子どももまた話し合った結果、年長児より注意喚起できるポスター作成の音が上り、すべり台2カ所に掲示した。年長児のクラスへ行き、実際の自由遊びの時間でも、子どもがお互いに声を掛けて注意できるよう働きかけを行っていたことはいずれも取り入れられた。	1.いっもの様子であった	身体を動かして遊ぶのが好きで、危険行為は当日もすべり台には自ら進んで取り組んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任はすべり台に背を向けてパルンを見ていたため、本児を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育教諭も、支援が必要な園児の担当だったこともあり、本児の動きを見ていなかった。	今年度5月からの振り返りや、園児の成長を考えた上で、進級児に比べ本園環境下での経験が豊富で、より留意して本児の動きを見ることができたこと、全職員が改めて通知し、共通認識を図った。	すべり台での様子が見守れるように保育教諭の配置を見直しや連動化と、子どもへの声掛けや意図的なサポート方法を話し合った。その後、全職員が改めて通知し、共通認識を図った。
1448	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	30							2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左第4指挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	職員間での話し合いを行い、トイレでの注意事項を再確認した。	2.不定期実施	1	1.定期的実施	3	2.不定期実施	12	1.集団活動中・見守り	指を挟めようとしたかもしれないという予測がなかった。	トイレの個室ドア全てにスッパーを設置した。	1.いっもの様子であった	自分で排泄することが出来るため、この日も行っていた。	3.対象児の動きを見ていなかった	担任2名は、排泄後の子どもも、排泄中の子どももそれぞれ見ていたため、本児をしっかりと見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレには担任2名以外いなかった。	排泄の時間でも事故が起きないように注意を払うべきだった。	担任同士の間で確認し、配ることに決めていく。
1449	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9 7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	31							2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	担任が部屋から出た子に気が付かなかったことを職員間で話合う。担任同士で声を掛けあい、全体を見ていく。フリーはクラスの活動時間中での見守りを強化する。	2.不定期実施	1	1.定期的実施	3	2.不定期実施	12	1.集団活動中・見守り	保育者が部屋に1人になったときは、常に見守る。保育者から出てきた様子を見守り強化する。	1.いっもの様子であった	好奇心旺盛で、当番の様子を伺って部屋から出てきた。	担任1名は他児と部屋から出てきた子に気が付かなかった。もう一人は部屋にいたが、他児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備中は、そのクラスにいて見えていなかった。	部屋にいた担任から声を掛けあい、担任同士で声を掛けあい、落ち着いた様子を見てから部屋を出て行くように指示した。一人の担任が付いてきたことには気が付かなかった。	職員間で話し合い、担任同士で声を掛けあい、落ち着いた様子を見てから部屋を出て行くように指示した。一人の担任が付いてきたことには気が付かなかった。		

No	概要			発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																		
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況		診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学童	その他				
1450	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	33						2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	担任2名が全員の様子をしっかりと見ていなかった。子どもが担任へ伝えられなかった。伝えられなかった。ずいぶん雰囲気を出していた可能性もある。	担任同士で目を向ける範囲を確認しあう。ゲームを盛り上げることは担任が確認しあう。冷静に子どもへ目を向けるよう職員間で話合った。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	12	1.集団 活動中・見守りあり	内容と年齢に合わせた場所での活動を行う。	1.集団 活動中・見守りあり	椅子取りゲーム中だったので、盛り上がる様子を見れていた。	常に全体を見渡し、いつもの様子はないが確認している。	1.いつもどおりの様子であった	物静かであるが、自分の意見を主張し、活動には参加して見えた。	4.対象児の動きを見なかった	担任1名は保育を進め、もう1名はクラスにいる様子を見ながら、全体を見ていた。本児も楽しそうに遊んでいた姿が見えた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各クラスの保育時間中だった。	担任は本児の異変に気が付かなかったが、保護者が迎えに来るまでの間に他の職員も本児と関わっているが誰も気が付かなかった。何かあると担任へ伝えられるような信頼関係が不足していた。	職員間で話し合い、子どもに対してしなやかな配慮をする。自分の意見を積極的に伝えられない子にも注意を払う。	
1451	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32						2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右5指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	担任2名が全員の様子をしっかりと見ていなかった。担任へ伝えられなかった。伝えられなかった。ずいぶん雰囲気を出していた可能性もある。	担任同士で目を向ける範囲を確認しあう。最後まで確認すべきだと職員間で話し、確認した。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	12	1.集団 活動中・見守りあり	内容と年齢に合わせた場所での活動を行う。	1.集団 活動中・見守りあり	危険だと感じたので声をかけた。最後まで様子を確認しなかった。	最後までひとりひとりの状況をしっかりと確認する。前向きな保育姿勢を崩さない。	1.いつもどおりの様子であった	活動に積極的に取り組み、活発に行き交う姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任1名は保育を進め、もう1名はクラスにいる様子を見ながら、全体を見ていた。本児が本来と違う動きをしていたので声を掛けていたが最後まで様子を確認しなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各クラスの保育時間中だった。	担任は本児の動きについて声を掛け、危険を予測していたが、気が付かなかった。保護者が迎えに来るまでの間に他の職員も本児と関わっているが誰も気が付かなかった。	職員間で話し合い、危険を予測していた場合は、最後まで見届け、どこかあった場合に担任へすぐ伝えるような雰囲気や信頼関係を築く。	
1452	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20						3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折 右外側神経麻痺	1.遊具等から落下・落下	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 以上配置	ジャンプして跳び下りる際、動くマットの補助する職員数が適切であったが、子どもが並ぶ位置に補助が必要であった。	跳び下りる際に、二人で並ぶ位置に補助が必要であった。	1.定期的 に実施	1/週	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.集団 活動中・見守りあり	同じ状況から二人の保育士が補助していたが、並ぶ順番を守らないうちで走り、順番を守らない等の子どもの様子も確認できなかった。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	2.対象児の至近で対象児を見ていた	割り込もうとする児がいたにもかかわらず、二人の保育士共々マットを押し、跳び下りる子どもを補助できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	遊戯室で縄跳びが展開されており、担当の遊びが目に入らなかった。	担当する遊びだけではなく、保育士の見えぬ動きを把握し、危険性を感知し、危険な状況に気づいたら、声を出して伝える必要がある。				

No	概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況						事故発生時の要因分析											掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故誘因	要因分析																							
					人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	ソフト面			ハード面				環境面			人的面															
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳								5歳以上		学童	その他	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策			
1453	平成29年9月29日	1.認可	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	6.5歳以上児クラス	31						4	2	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士によるもの	1.定期的実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	1.集団活動中・見守り	サッカー試合のため、多少の競り合いはあったが、試合を止めないまま試合を見守っていた。	サッカー試合中のため、多少の競り合いはあったが、試合を止めないまま試合を見守っていた。	1.いつもありの子どもが蹴り蹴った	日頃から活発で体を良く動かす。運動もサッカーも機敏に動いて試合に挑む。	2.対象児の近所で対象児を見守っていた。	指導員2名うち、1名は内コート前。1名は至近距離で観戦していた。	2.担当職員の動きを見ていなかった	転倒した瞬間は、他児の手当を園庭内の水道(反対側)で行っていたが、目撃していません。指導員2名が目を付けた。担任は転倒直後より本児の状態を確認している	転倒した瞬間に手を添える必要であった。	転倒しそうな際は手を添える。	
1454	平成29年9月29日	1.認可	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先公園等)	7.異年齢構成	128	12	18	24	26	22	4	4	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施	4	1.定期的実施	1	1.定期的実施	293	97	1.集団活動中・見守り	園内で起きた事例のため記載なし。	園内で起きた事例のため記載なし。	3.いっぽり活動的であった(理由を記載)	気持ちの高まりもあり、友達とぶつかる事になった。	子ども達の気持ちは高まりつつも、焦らな子とちと安全に配慮する必要があった。	1.担当職員の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	担当職員の補助が足りなかった。	園生活と場面に合わせた職員対応が活用できなかった。	日頃から走る際の距離に配慮しながら職員も子どもも習慣化しておくことで、場所や雰囲気も変わっていきやすいようにする。		
1455	平成29年9月29日	1.認可	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	1						1	1	13.1歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左眼周囲部切傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.定期的実施	1	1.定期的実施	2	1	3.個人活動中・見守り	事故発生翌日、ベンチの足部分にすべり止めを貼った。また、保育室内でけががあると予測される部分に、すべり止めやクッション素材を付けた。	ベンチが動くことのできるようになってきた。	子どもの援助にすべり止めを貼った。また、ベンチの足部分にすべり止めを貼った。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・嘔吐等理由を記載)	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	しゃがんで右ひざを立て、立ち膝をして2台のベンチの間を伝い歩きする。その後、両手でベンチを押さえていた。本児がベンチに手を着いたが、その指のめりになり、左目尻をベンチの木の部分にぶつけ、そのまま床にしがみついて、すぐに抱き上げて傷口を確認し、主幹教諭に報告した。	職員会議で本件について取り上げ、いつでも構えよう共有理解した。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面			環境面	人的面		改善策																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1456	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃~夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置						全職員が共通の意識をもって事故防止にあたるよう、研修を継続する。	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施		引き続き遊具等を行う。	3.個人活動中・見守り			職員会議で、お迎え間際の保育活動で一日のまとめとしての静かな遊びを取り入れ、落ち着いて降園出来るようにすることを職員全員で共通理解した。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	保育教諭を独り占めできないように、いつもより高機を記した。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	事前に本児と約束していたこともあり、ゆっくりかかわれる時間に遊び箱を設置した。援助のため、援助のために箱切板から見て遊び箱の右前側にいたところ、本児が飛ぶ際、バランスを崩したのどっさに右腕をつかんだが、そのまま左手を床に落ちてしまった。		園児一人一人の身体能力を把握し、終礼等で職員間で共通理解することで適切な援助が行えるようにする。18時以降の過ごし方について、静かな活動を中心に過ごすことを職員会議で話し合った。	
1457	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80									6	6	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折・右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置				改めてサポートの仕方などの研修を深めていく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	本児が何度も取り組んでいた動きであり、とても上手に行っていた。今後も、安全にできるよう、引き続き園を行っていく。	3.個人活動中・見守り		本園では、子どもが自分で考え自分の意志で遊ぶようにし、自己の力量から挑戦や中止を決められる環境を大事にすることで、子どもが真に育つと信じ保育を進めている。高さのある遊具も、簡単に登れないように作り置きしており、そこに登り降りる過程を子ども自身で経験することが、高さを認識して楽しく安全に遊ぶ事ができると考えている。	子どもが真に育つ環境を大切にしながら、遊びなれた頃にケガをしやすくなることを意識し、教職員が共通認識を固めながら保育を進めていく。	1.いつもおの様子であった	身体を動かすことを好み、危険行為はなされた。当日も友達と一緒に遊んでいて、自ら取り組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた。	石垣に所がたてておまきを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離ではなかったが、本児の動きを視界に入っていた	その時の子どもの様子から、必要に応じて声掛けや意識が継続できるようにサポート方法を改めて確認し共通認識を図った。
1458	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54	4	7	7	12	12	12			10	9	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲による左鼻骨亀裂	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置				事故防止マニュアルはあったが、遊戯室での活動別配慮事項は特になく、職員会議等での伝達・確認のみとなっていた。	事故防止マニュアルを見直し、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		1.集団活動中・見守り		今回の事故に関してはシンクも角が丸くなったため、切り傷までは至らなかったと思われるが、園児が水を飲みに行き過ぎて見守りが十分ではなかった。	1.いつもと変わらず登園して来た。担当者と向き合っている様子であった	1.いつもと変わらず登園して来た。担当者と向き合っている様子であった	4.対象児の動きを見なかった	本児と他の園児と一緒に遊んでいたが、水を飲みに行き過ぎて見守りが十分ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員数の不足はなかったが、日頃から歩行や廊下を歩く際の安全確認を徹底し、落ち着きやすい様子を見ることがあった。	保育室を出ていく時は必ず声をかける。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					7歳以上					その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名		1.遊具等からの転落・落下	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
1459	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	54	0歳	1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	7	5					17.5歳														1男児								1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折
1460	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2 7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1							1	18.6歳	1男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手人差し指第一関節の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期	2	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	12	1.集団活動中・見守りあり	1.いっぽりのおもちゃがあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が保育室へ向かったため、慌てなくても良いこと、歩いて行くことを知らせながら本児の後ろを走らせたが、慌てて走り出すことができなかった。	保育教諭は、本児に「慌てなくてもいいから歩こうね」等、落ち着いた声で声をかけ、本児が保育教諭の声を止めるようにする。	本児は慌ててしまった。	本児が保育室へ向かったため、慌てなくても良いこと、歩いて行くことを知らせながら本児の後ろを走らせたが、慌てて走り出すことができなかった。	保育教諭は、本児に「慌てなくてもいいから歩こうね」等、落ち着いた声で声をかけ、本児が保育教諭の声を止めるようにする。					
1461	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	2	3	4	3	3		17	16.4歳	1男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折、右尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期	1	1.定期的	3	1.定期的	3	1.定期的	3	1.集団活動中・見守りあり	1.いっぽりのおもちゃがあった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	朝の自由遊びの時間、鉄棒に座ろうとしたところ、誤って転落。本児がとっさに右手を着いた。	1.担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒の安全な遊び方を伝える。必ず手を離さないように伝える。友だちが鉄棒で遊んでいるときは近づかない、等を伝える。本児には二次災害が起きないよう、激しく遊ぶことがないように伝える。	しっかりケガ等がないように見守る。安全に遊ぶよう幼児に伝える	朝の自由遊びの時間、鉄棒に座ろうとしたところ、誤って転落。本児がとっさに右手を着いた。	1.担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒の安全な遊び方を伝える。必ず手を離さないように伝える。友だちが鉄棒で遊んでいるときは近づかない、等を伝える。本児には二次災害が起きないよう、激しく遊ぶことがないように伝える。	しっかりケガ等がないように見守る。安全に遊ぶよう幼児に伝える
1462	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46							7	16.4歳	1男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	現段階では診断名つかず	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1	1.定期的	1	2.不定期	1	1.定期的	1	1.集団活動中・見守りあり	1.いっぽりのおもちゃがあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	朝の自由遊びの時間、鉄棒に座ろうとしたところ、誤って転落。本児がとっさに右手を着いた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室で朝の身支度を手伝った。	職員配置人数や職員の仕事内容などから、遊ぶ場や内容を考え、遊戯室で朝の身支度を手伝った。	朝の身支度などで慣れない時間のため、遊ぶ場所、遊ぶ内容を検討し、子ども達が安全に過ごせるようにしていく。	職員配置人数や職員の仕事内容などから、遊ぶ場や内容を考え、遊戯室で朝の身支度を手伝った。	朝の身支度などで慣れない時間のため、遊ぶ場所、遊ぶ内容を検討し、子ども達が安全に過ごせるようにしていく。	職員配置人数や職員の仕事内容などから、遊ぶ場や内容を考え、遊戯室で朝の身支度を手伝った。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1463	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	41	19	2	16	4	7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕橈上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.1	1.基準以上配置							1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	40			1.集団活動中・見守りあり	1.いつもおりの様子であった	朝の健康観察でも異常元気がなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の担任1人と1歳児の担任6人が、大型遊具の各所を分担任して園児の見守りをしていた。事故の時は、本児の担任は大型遊具のカラー滑り台を1歳児が登るところを補助しており、本児の近くにはいなかった。また、本児の担任は大型遊具の周りで鬼ごっこをさせていることは知っていたが、遊具の中に入り込んでお遊ばしを止めず、遊具の上で鬼ごっこをするのではないのという声かけはなかった。	本児の担任1人と1歳児の担任6人が、大型遊具の各所を分担任して園児の見守りをしていた。スロープには1歳児の周りに転倒し、転倒した際に本児の体を抱き起こした。	4歳児と1歳児が合同保育することによって、4歳児に対しての見守りが希薄になっていたと考えられる。	異年齢が合同で保育する場合は、担任打ち合わせとともに、自分が担任をしている子ども以外の子ども達とルールを確認指導することを徹底する。	
1464	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34					10	9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置 事前に準備運動の不足	ボールを使った事前準備運動の不足	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	常時	コートの大ささと参加人数のバランス	十分な動きが楽しめるコートで行う。	1.集団活動中・見守りあり	ボールの空気圧、及びボールの素材	柔らかいボールを使用する。ボール中の空気状態を事前に確認し安全な空気圧を確認する。	1.いつもおりの様子であった	ドッジボールを好みに遊んでいた	2.対象児の動きを見ていた	子どもと一緒にドッジボールに参加していた	2.担当児の動きを見ていなかった	他の幼児に当たっていた	幼児の動きの把握と日頃のボール遊びの経験を増やす。					
1465	平成29年9月29日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4 1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	43					5	5	16.4歳	1.男児	外で遊ぶことが好きで、活発。	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕橈上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	登園時間の自由あそび中、園庭に出られることのできる職員が限られていた。	園庭で子どもに囲われている職員の見直し。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	園具遊具の配置	園具遊具の使用法について、検討や確認をした。	7.その他	登園時間中に担任に近い状況であった	自由あそび中の園庭にも、保育者が目が行き届かなかった	1.いつもおりの様子であった	その日は、保育士が高揚していた	4.対象児の動きを見ていなかった	1.担当児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任は室内にいたが、他の職員2人が少し離れたところで園児全体を見ていた。	遊具の使い方を再度確認する。また、自由あそび中も保育者の目が届くようにした。							

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況										事故発生の要因分析										掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1466	平成29年9月29日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7月 1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	6	11	6	3	8	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首横骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置		改善策	足先から20cm程度で危険な高さから落ちたわけではなく、たまたま手がつかかかったと思われる。転び方や降り方などを日常的に指導するようにしたい。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨天後、各遊具の水気を拭き取って遊具を使用させたが、拭き取りが不十分であった可能性がある。	雨天後の遊具の使用においては、徹底した水気の拭き取りを行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	無理のない高さで遊ぶように、その都度声掛けをする。	1.いつもの様子であった	穏やかな子で激しい遊びは好きではないが、鉄棒やジムなどでは遊ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.6名の園児と共に4名が外に出て、共に活動しながら園児の観察と安全確認を怠っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	数グループに分かれていたため、それぞれのグループの園児を見守ることから、直近の位置にいた職員以外は園児を見ていない。		今後も職員による徹底した観察の強化と安全確保に努める。
1467	平成29年9月29日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5月 1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37	17	9	11	3	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	うんてい使用時、必ず保育士が側につき、着地まで見届けることが求められるが、2箇所のうんていに対し、一人の職員配置しかされていなかった	うんてい使用時は、2人の職員を配置する。職員配置が困難な場合は、一時的に遊びのスペースを縮小するなど、死角のないように連携を図る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	マットの材質や固さ、大きさなどつまずきやすいものではないか、年齢に合ったマットであったかの再確認が必要である	遊具に限らず、玩具、施設に関するものや怪我の危険性がないかを会議で取り上げ注意喚起を促す	1.集団活動中・見守りあり	登園のピーク時間に重なっていた(ピーク時間8:10~8:30)早番・日番で対応していた職員が明確になっていなかった	職員配置・役割を明確にする	1.いつもの様子であった	友だちより先に本棚に手をたくえて本棚に向かうとした	4.対象児の動きを見ていなかった	登園時間帯であり、児童・職員が動いていた。うんていがあるが、うんていで遊んでいなかったため、手前のうんていで遊んでいる児童をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日の予定、園児の情報を確認して、室内の園児に目を向けていなかった。	新園2ヶ月目で園内マップがまだ細部にまで作成できておらず、共有し始める状況である	遊びスペースの確認および配置職員の役割を明確にし、危険が潜む箇所をリストアップする
1468	平成29年9月29日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4月 8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63	33	30	5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故発生時、近くにいた職員だけが状況判断をして対応をした。複数の職員で最善の判断をすることができなかった。また、園長不在時の事故であり、対応に遅れもあった。	ケガの状況について多数の職員で判断せず、複数の職員で最善の判断をするようにする。また、園長不在時の対応について、再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	2.不定期に実施	遊具の安全点検はしていたが、遊具の片付けが不十分であったため、子どもがすぐ取り出せる場所があった。	遊具の片付け場所を、子どもがみながら改善する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具(フープ)が4月の降園前(4.5歳)での自由遊びには、危険を伴う遊具だったと考えられる。	その時期に適した遊具の配置をうにしく、	1.いつもの様子であった	いつもと変わりなく元気であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	総合遊具のところ、他の遊具を見ていたが、転んだのは見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	電車ごっこをしてはいたが、転んだのは見ていなかった。	子どもが見える位置で保護者対応ができていなかった。	降園時、保育士対応しつづつ子どもを背に背を向けない。			

No	概要				発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析													掲載更新年月日									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	事故にあった子どもの状況 年齢 性別 特記事項	事故時状況			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面											
						人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況		診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策					
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他				1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	3.個人活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	1.いつでもおりの様子であった	1.いつでもおりの様子であった	健康状態は良好。いつも通り学校に取組んでいた。	2.対象児から離れたところで見えていた	2.対象児から離れたところで見えていた	1.園児への対応...ブランコなど固定遊具の使用方を再指導する。・教職員へ事故の現状をとともに、養護職員を含む教職員間の安全面連携体制を再確認、強化する。																	
1469	平成29年9月29日	1.認可	5.幼稚園	6 2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	41	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	17.5歳	1男児	行動面...気持ちが高ざると、まわりの様子に気づかず行動することがある。対人関係...教師や友達の言葉を聞いて「嫌」と感じると、気持ちが落ち込み、切り替えがしにくい。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	左側頭部頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	3.個人活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	1.いつでもおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見えていた	直前まで、砂場で遊んでいたが、本児がブランコへ行き、乗り始める。担当職員は本児の様子を確認するが、他児と砂場の片づけを継続する。砂場の子ども達を保育士と連携して見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	教師2名は保育室前。	他1名は保育室前。	・園児への対応...ブランコなど固定遊具の使用方を再指導する。・教職員へ事故の現状をとともに、養護職員を含む教職員間の安全面連携体制を再確認、強化する。
1470	平成29年9月29日	1.認可	5.幼稚園	7 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	1	1	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	17.5歳	1男児	平成29年2月10日、自宅にて転倒し、左上腕骨骨折で約2ヵ月治療した経緯があり、保護者は、本児が骨折しやすい体質ではないかと心配している。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期	3	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.集団活動中・見守りあり	1.集団活動中・見守りあり	1.いつでもおりの様子であった	健康状態は良好。いつも通り学校に取組んでいた。	2.対象児から離れたところで見えていた	2.対象児から離れたところで見えていた	職員は、各活動場所及び職務に当たっていたため、見えていなかった。	現職員数より人数に余裕があれば、年長児に対し、2名の職員を配置できるようにする。
1471	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4 2.午前中	3.施設敷地外(園先・公園等)	7.異年齢構成	19	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	4	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	17.5歳	1男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	12	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.集団活動中・見守りあり	1.集団活動中・見守りあり	3.いつでもおりの様子であった(理由を記載)	今年度初めての公園遊びで、保育士が話をしていなかった。保育士が戻ろうとした時に落下。	他児が公園外に出ようとしたのを止めたところでの事故で、保育士が戻ろうとした時に落下。	遊ぶ前の声掛けで危険な事を教え、職員は子どもの様子を見守っていた。また、危険を感じるとともに、職員が付くように注意した。	1歳児と一緒に公園遊びで、小さい子が注意が集中してしまっていた。	遊ぶ前の声掛けで危険な事を教え、職員は子どもの様子を見守っていた。また、危険を感じるとともに、職員が付くように注意した。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 人数	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面		ハード面		環境面	人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡	負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置		その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	道具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1472	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12	0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	3	3	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節部切断	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	安全管理マニュアルの有効活用や、定期的研修を実施し、常に怪我や危険箇所への意識をしっかりと持ち持つ必要があった。	安全管理マニュアルを見直し、園内検査を実施する。危険箇所を職員間で再認識する。	1.定期的実施	1.定期的実施	2.不定期に実施	4	1.集団活動中・見守りあり	午後遊びの約1時間遊びの場を撤去し、室内を見直し、他の棚にも安全を保つようカバーを作成した。1歳児保育室以外にも園全体を複数回職員で再点検し、危険箇所を段階的に取り組む。今後の事故検証の為に、0・1・2歳児室にビデオカメラを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達の様子に注意を払って、声かけを怠らないうえ、再度投げようとしたため、片付けも出ている時間帯だったが、保護者に伝えられ、保育士1名が室外に出て、もう1名が入口付近にお迎えの対応していた。ほんの数の数分だが1人の保育士がかかる状況がつけられた。	1.いつもおどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の動きを見ていなかった	それぞれ別の保護者対応のため担当保育士・対象児の動きはなかった。	担当保育士が注意を引いた際に、保育士3名が保育士2名を同時に保護者対応して、保育士1名が保育士から離れて、1人10歳未満の子どもを保護する。保育士も子どもに視線が落ち、危険な場面では声を掛けられるよう保育士から離れている。	子どもへの気持ちは「子どもは「子ども」決断して無理に引いたりせず危険な時は抱きとめて止めるようにして保育士同士の連携を強化し、保育士も子どもに視線が落ち、危険な場面では声を掛けられるよう保育士から離れている。	
1473	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	5歳 6歳 5歳 9歳	3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右第5趾基部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	特になし	マニュアルに基づいて更なる研修を深める	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	毎日	特になし	1.集団活動中・見守りあり	日常から活発な動きがみられるが、当日は幼児の欠席(学校行事のため)が多く、夕方の時間帯が少なく、落ちていてボールの見過しも多く、子どもの活動を把握しやすかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5-6名の2-3歳児とボールを投げたり取り取り、転がらばせながら危険にならない様子に注意していた。	2.対象児の動きを見ていなかった	長縄コーナーでは順番を待つ子を見ながら長縄を回す(1名)、ブロックコーナーでは座って遊ばせながら、ボールの出入り口付近の子どもの様子を把握する保育士(1名)と連携をとる。	特になし	特になし			
1474	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40	10歳 15歳 15歳	3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕脛上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	12	3.個人活動中・見守りあり	遊び始める前に子ども達全体に約束していた。立方体3個の高さよりも高く積み重ねた上に座っていた。	3.いつも活発な様子であった(理由を記載)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.対象児の動きを見ていなかった	対象児が方向を見失っていたが、そばにいた保育士が声をかけた。	保育士間でも安全な高さや再確認する。活発な遊びをしながら、重点的につまみ、再発の無いようにする。						

No	概要				発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日																					
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	事故状況				ソフト面			ハード面				環境面			人的面																							
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策																
1475	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	2	17.5歳	1男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1							1.集団活動中・見守りあり					1.いっもの様子であった	雪どけのため長靴を着用していた	2.対象児の動きを見ていた	対象児の動きを見ていた	対象児の動きを見ていた	1.担当者が対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士間で連絡を取り、全体を把握し、対象児の動きを確認していた。	保育士間で連絡を取り、全体を把握し、対象児の動きを確認していた。	保育士間で連絡を取り、全体を把握し、対象児の動きを確認していた。	突発的な伝達事項であったも、子どもが遊具で遊び終わるのを待たずに、安全確認してから保育士間での伝達を行った。子どもが高い位置まで登る遊具で遊ぶときは必ず手すりを見守る。	
1476	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	6 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	44									3	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	3	17.5歳	2女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上肢骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12						1.集団活動中・見守りあり					1.いっもの様子であった	他児が回転式うんていをしていて、対象児が手を滑らせようとしたところ、手を滑らす。	2.対象児の動きを見ていた	回転式うんていだけでなく遊具全体を見ており、対象児が手を滑らせた時、手を差し伸べることができた。対象児の成長段階に合わせ、適切なことを把握できなかった。	固定遊具から離れた場所の子どもたちを介して見つけた。	子ども一人一人に対する発達把握をする。						
1477	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	3 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	4	9	5						2	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	2	18.6歳	2女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	関節内骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12						1.集団活動中・見守りあり					3.いっもの様子であった(理由を記載)	卒園式も終わり、就学に向けて、開放的に遊んでいた(理由を記載)	2.対象児の動きを見ていた	自分が担当しているコーナーに集まる子どもの動きを見守り、必要に応じて援助していた。	自分が担当しているコーナーに集まる子どもの動きを見ていた(至近距離にいた)	自分が担当しているコーナーに集まる子どもの動きを見ていた(至近距離にいた)	子ども一人一人に対する発達把握をする。 ・年長児から大丈夫と考える、子ども一人ひとりの状況に応じた対応をする。 ・担任がいなくても、職員の間でも同じ対応をし、規制すべきことが見守りや声掛けの配慮が不足だった。					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日										
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面				環境面		人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策				
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他	
1476	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	3	8	9	5	4	4	16.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	遊びの安全、子ども一人ひとりの遊びの状況についての把握に、職員の個人差があったのではないか。	遊びの安全面の共通理解と継続して、運動遊びに同じ保育者がつき、個人の遊びの状況把握に努める。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	ゲームボックスに段差をつけて、運動発達に応じて楽しめるようにしてきたが、高さのあるところでも階段状になっているため、3歳児に登れるところが要因の一つであったのではないか。	一人ひとりの能力や経験、そして骨の発達も把握し、運動あそびの環境を考慮する。	1.集団活動中・見守りあり	挑戦したい気持ちがあったものの、緊張する無理もないという気持ちが、周りにみられている友だちの応援であとを引けなくなったのではないか。	自分で無理だとあきらめざるに、緊張する無理もないという気持ちが、周りにみられている友だちの応援であとを引けなくなったのではないか。	3.いっしょに活動的であった(理由を記載)	年上の子に対するあこがれも、遊びに積極的に参加していた。挑戦したいという気持ちが強かった。	2.対象児の動きを見ていた	すぐに手を差し出しつづける位置には見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室にもう1名おり、降園する際、保護者と対応する。他の職員は隣接するオープンの3部屋に2人職員を配置し他の子どもたちを見守る。	子どもの表情、仕草に敏感に感じること、周りの雰囲気、その子がどう感じているか、かかわる必要がある。
1479	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	1	7	5	9	11	10	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	保育場面での留意が欠け、事故防止マニュアルの整備ができていなかった。	事故防止マニュアルの実施により、周知・再確認を行った。	1.定期的 12	1.定期的 12	2.不定期に実施	気づいた時、戸外をそれぞれに開始して、戸外に出ている場合、学年ごとの活動内容で範囲規制や誘導をする。	3.個人活動中・見守りあり	全クラスが、戸外に出ている場合、学年ごとの活動内容で範囲規制や誘導をする。	鬼ごっこの際には、鬼ごっこは、使用しない。	1.いっしょに活動的であった	活動前に諸注意等を確認し、戸外に注意を促した。	4.対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びをそれぞれに開始して、戸外に出ている場合、学年ごとの活動内容で範囲規制や誘導をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ学年の児童に付いていた。	児童の心身状況を把握し、注意が十分ではなかった。	活動時の危険性を再確認し、見守りできるように配慮する。
1480	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20					2	2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	保育所独自の取り組みとして、椅子の取り組みとヒヤリハットP.Jを中心とした、事故防止に取り組んでいる。今回の事故発生時も受傷直後に報告があり、連携を速やかに取る事ができ、受診につなげることができた。	クラスの子どもをたすけるため、死傷防止に気を配り、今回の事故発生時も受傷直後に報告があり、連携を速やかに取る事ができ、受診につなげることができた。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	狭い室内でのイスの並べ方として、イスの数が多すぎたため、子どもがまたたく間に倒れてしまった。	遊びの設定として、早い段階で確認をとり、制止すべきだった。	1.集団活動中・見守りあり	午睡の時間であり、目を覚めているが体が目覚めていない状態がある。しつかり確認し、その時の状況に合わせた判断が適切か、判断し、安全な保育に努めたい。	午睡の時間であり、目を覚めているが体が目覚めていない状態がある。しつかり確認し、その時の状況に合わせた判断が適切か、判断し、安全な保育に努めたい。	1.いっしょに活動的であった	片手に玩具を持って遊んでいる。	3.対象児の動きを見ていなかった	室内には保育士2名いたが、イスで遊び始めたので、視線が離れたところから対象児を見ていた。	事故当時、担当職員が目を覚めた。対象児の動きを見ていなかった。	椅子を並べている活動から、左手に玩具をもって椅子の上に乗ったため、危ないと感じた。その瞬間、背もたれの方から飛んできたため、子どもが倒れてしまった。子どもたちの発想を大事に考え、幼少児の安全な保育に努めたい。	子どもの遊びの発想、発想はともないうち、その発想に合わせた保育に努めたい。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析														掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳						うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況					診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策												
1492	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21	0歳	1歳	2歳	3歳				4歳	5歳以上	学童	その他				3														うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり
1493	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	5歳	3歳	6歳	4歳	6歳			5	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	5	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 毎日	6	2.基準配置	異年齢で過ごす空間の中での遊びのスペースの確保や各年齢の適し方についても職員同士で見直し、共有していく。	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	カラーボックスの材質上、固さも子どもが行動をよそよそしく考え環境設定をよそよそしく、危険な場所を確保する。また、子どもが行動する場所にはガードを設置し、共有していく。	子どもの行動をよそよそしく考え環境設定をよそよそしく、危険な場所を確保する。また、子どもが行動する場所にはガードを設置し、共有していく。	1.集団活動中・見守りあり	朝の合同保育中、おすもう遊びのスペースを確保する。また、子どもが行動する場所にはガードを設置し、共有していく。	異年齢で過ごす空間の中での遊びのスペースの確保や各年齢の適し方についても職員同士で見直し、共有していく。	他児と合っている中で、少し大きい動きになっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	異年齢で過ごす空間の中での遊びのスペースの確保や各年齢の適し方についても職員同士で見直し、共有していく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	乳児の個別な関わりをしていたり、登園児の受け入れを促していた。	異年齢の保育の受け入れも、目が行き届いていない部分があった。	職員が保育の受け入れも、目が行き届いていない部分があった。				
1494	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84								10	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	9	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	1.意識不明		8.その他	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	AEDの使い方・心臓マッサージの再度研修を受ける	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	AEDの定期検査を受け、常に使用可能な状態にしておく	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶ際の対応(職員が巡回して確認し周知徹底する)	1.いつものおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊んだあと、かけこをするため、職員が駆けこを促すために、至近距離にいた	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	かけこを促すため、職員が駆けこを促すために、至近距離にいた	職員が緊急時の対応(AED・心臓マッサージ)について研修する。								
1495	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21							2	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右橈骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	・事故は全曜日の午後であったため、当日は簡単な注意喚起を行ったのみであったが、普通日と同様に職員会議にて、原因究明と対策を話し合い職員への周知を行った。 ・事故の前後でハード面での環境を大きく変えることはない。 ・固定遊具の遊んだ場所は、4歳児にとって無理な高さではなく、また雨で濡れていることも考慮すべきであった。	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	・午前中に子どもが遊んで活動していた。その後、思い切り楽しんだら、疲れも出てきた。子どもは、ただ「危ないよ」だけではわからないので、わかりやすい言葉で「しっかりとつめて」「すべからずをつけて」「伝える」	・固定遊具で、もともと高い場所にいる子どもが、目が行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・固定遊具で、もともと高い場所にいる子どもが、目が行き届いていなかった。	・どうしても保育者から見て危険なところに行きがちであったり、運動能力の高い子は丈夫さという思い込み等があったことについて反省し、見守り力をつけるための「予行」をいかに高めるか、子どもは「危ないよ」だけではわからないので、わかりやすい言葉で「しっかりとつめて」「すべからずをつけて」「伝える」												

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策			
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																						5歳以上	学童	その他
1496	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	5 8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60	0	0	0	17	20	23	0		3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小児上腕骨外顆骨折	1.遊具等から転落・落下	2.不定期に実施	1.あり	1.基準以上配置	外遊びの時の事故防止対応の人員配置場所の変更と人員増員	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	13	1.定期的 に実施	12			定期的に点検すること、改善を迅速に行うこと。古い物は買い換える。	3.個人活動中・見守り	3.個人活動中・見守り	思いがけない遊具の使い方があることを共通理解する	1.いつもどおりの様子であった	ログとりでの2階部分で遊んでいる時、バランスを崩し落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近には職員が居たが、ログとりでの対象児の居る反対側に居たため、落下を食い止めることができず間に合わなかった。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	一瞬の落下に職員の間が合わなかった。		遊具の配置や子ども達の人数・年齢にあわせ子ども達の様子を見る
1497	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	5 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・手指)	左足中指PTP間接脱臼	3.子ども同士によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	20	2.基準配置	特になし	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12			保育室が狭い所持品整理の時の導線が混乱している	所持品片付けを子ども達が始めるのをみて、1階の動きを覚えていた	4.対象児の動きを見なかった	所持品の片付けを子ども達が始め、1階の動きを覚えていた。保育室に置き忘れられたものをとりにいった。	2.担当者・対象児を見ていた	自分のクラスを離れて、各々のクラスで保育していた。	担当保育士が保育士を離れ、保育士が一人では、絶対に子ども達から離れない、やむを得ないときは近くの職員に声をかけ、等の徹底を確認を職員全員で行った。	保育士が一人では、絶対に子ども達から離れない、やむを得ないときは近くの職員に声をかけ、等の徹底を確認を職員全員で行った。			
1498	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			14	3					1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘にヒビの可能性あり(レントゲンには、うつら可能性とこのこと)	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	特になし	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	12			1.集団活動中・見守り	特になし	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	傍に付いたり、注意を促さなければならぬほどの激しい遊びの段階ではなかった。	年上児の遊びが急なことで、通常とは違う男児が傍に遊びが激しく予備予備であった。	通常とは違う男児が傍に遊びが激しく予備予備であった。						
1499	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4 1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期 に実施	3	1.基準以上配置	4月という時期を想定される事故防止研修をするべきであった。	定期的に関内研修および職員会議にてヒヤリハットを報告し注意喚起あう。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	9	1.定期的 に実施	1回/週			4月という時期を考慮し、遊びの切り替えは3歳児全員で取り組むべきであった。複数の遊びの選択ができる状況であった	混雑しがちな、順番待ちの長い状況に配慮し、同士のききあいを促す。	1.集団活動中・見守り	4月という時期を考慮し、遊びの切り替えは3歳児全員で取り組むべきであった。複数の遊びの選択ができる状況であった	保育士A:追かっことをしている園児に対して門から外へ出ようとした子をとめたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場にいた保育士全員が遊びが切り替わることになった。子ども全員が追いかけてくっついて参加するのを確認するべきであった。	現場にいた保育士全員が遊びが切り替わることになった。子ども全員が追いかけてくっついて参加するのを確認するべきであった。	複数の職員が遊びの役割をしっかりと決めて、全体位置に職員がいて子どもの動きを徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要		発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故発生時の状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日				
		認可・認可外 施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面		ハード面			環境面		人的面		改善策									
					人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上 その他						死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析 事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項
1500	平成29年9月29日	1.認可 6.認可保育所	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3 3	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨 右腕骨 上腕骨 下腕骨	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置	員全体で、事故防止について再確認する。延長保育時間の職員配置、体制についても再確認し、延長保育時間には、3・4・5歳児が一括に過ごす。17時15分以降は3人の保育士が対応するが、新年度でまだ慣れない3歳児に注意が向けられており、5歳児への対応が不足していた。	1.定期的 2.定期的 3.定期的 4.定期的 5.定期的	1.定期的	1.定期的	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。	対象児にふざけて登ることに注意を怠った。対し、逃げようとした。高い所に登り、それを注意した保育士に対して、逃げようとした。部屋根をつたって反対側から降りてしまった。						
1501	平成29年9月29日	1.認可 6.認可保育所	5 7.午後	3.施設敷地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	89	45	44	7	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨 折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 1回/週	2.基準配置	本園にはない公園の遊具の一方の遊具の使用方法が不明で、職員が危険回避の意識をもち、実際に公園の遊具の一方の遊具の使用方法が不明で、職員が危険回避の意識をもち、実際に公園の遊具の一方の遊具の使用方法が不明で、職員が危険回避の意識をもち、	2.不定期 2.不定期	2.不定期	2.不定期	本児が公園の固定遊具に、実際に公園の遊具の一方の遊具の使用方法が不明で、職員が危険回避の意識をもち、実際に公園の遊具の一方の遊具の使用方法が不明で、職員が危険回避の意識をもち、	1.集団活動中・見守りあり	つかまざるが、座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)	ブランコの柵は座席を揺るがし、柵に倒れた(理由を記載)
1502	平成29年9月29日	1.認可 6.認可保育所	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	9	6	1	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 3	2.基準配置	・事故発生後、職員に遊具での遊び方を再確認すること、子どもたちの様子を見て必要な補助につくことを確認した。 ・職員間で危険防止マニュアルを確認し、情報共有し、再発防止に努める。担当保育士だけでは心配な時は、主任保育士に声を掛けて応援を依頼する。	1.定期的 1.定期的 1.定期的 3	1.定期的	1.定期的	1.いつものおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・柵の補助に、落下の可能性を考慮してすぐに抱きとめられる位置につくようにする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因		ソフト面		ハード面				環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
1503	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	52								3	3	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 12	2.基準配置	特になし	周りに何もかもなく、園庭のくぼみなども今回の原因はなかったが、園庭のくぼみや段差をなくしたり、石拾いなど、園庭整備は今後も続けていく。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	体を動かすことが苦手で、食事の好き嫌いがあった。保育で体づくりをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	他児を追いかけたときに、足がもつれ転ぶ。	4.対象児の動きを見なかった	担任は、室内で対象児と関わっていたため、状況把握はできていないが、戸外に他の職員2名に、室内で伝え連携を取れるように声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士1名は他児が可動遊具で遊んでいたため危険箇所へ付く。保育士1名は他の対象児と落ちて遊ばせるように、一緒に虫探しをしていた。	特になし	周りに何もかもなく、転ぶ際に保育士が手を差し伸べることができなかった。今後、保育士が個々の遊びの運動能力などから危険性を再確認し、見守りするように配慮していく。
1504	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28		9	19					3	2	16.4歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下足踵遠位骨折	3.子ども同士の間での衝突によるもの	1.あり	1.定期的 1	2.基準配置	マニュアルを再度見直す。	1.定期的 毎日	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.集団活動中・見守りあり	園庭の使用法に年齢に応じた保育を考案する。	1.いつもどおりの様子であった	保育士が園庭に上ラックを書き、同僚の友だちと見守る中、かっこを付けていた。	2.対象児の動きを見ていた	本児の遊びを見守りつつ一緒に遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの状況を把握し、危険な遊びを止めるべきか度々言葉をかけた。	前日の雨で園庭がぬかるみ、危険な状態であった。	毎日、園長及び副園長で園庭の目視点検を行い、安全面での対応を速やかに行う。		
1505	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54			20	34				4	4	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	特になし	1.定期的 12	1.定期的 12	3回/年...業者毎日...保育士	2.不定期 に実施	1.定期的 12	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	保育士と一緒に行動中、鉄棒への取り組みが面白くなり、今まではあまり経験のない遊びにも挑戦してみた。	1.いつもどおりの様子であった	保育士と一緒に鉄棒をやっていたが、他児の要求により他児の所に行っていた。	直前まで鉄棒を取っていたが、園庭の場所を分けて子どもと一緒に遊ばせていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭のそれぞれの場所を分けて子どもと一緒に遊ばせていた。	繰り返し取り組むことで強くなったことを褒め、休憩を促す等していき、子どもの状況をしっかりと把握し、必要に応じてサポートしていく。		
1506	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16								1	1	15.3歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 50	2.基準配置	子どもの動きが分かるときの仕切りと、隣のクラスの保育士と連携をとった。園長や主査に声をかけ、保育士の目が離れる子どもがいないようにする。	1.定期的 293	1.定期的 293	1.定期的 293	1.定期的 293	7.その他	1.いつもどおりの様子であった	まだ、遊ばせておく予定であった。	他児の排泄についており、対象児が離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの保育士が、対応していたため見ていなかった。	担当保育士が保育士の目を離れ、子どもが目を離れ、園長や主査の状況に気づき、必要に応じて保育士が入る。	隣のクラスの保育士も、子どもが目を離れ、園長や主査の状況に気づき、必要に応じて保育士が入る。					

No	概要				発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面		ハード面				環境面		人的面																														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策																				
1511	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	0歳	1歳	2歳		3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	16.4歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1					2.基準配置	ホールの子どもの受け入れが数名重なったため、ホールに保育士1名だった。	子どもの受け入れの為にホールを出る時は、数名重なって1名で対応して、できるだけホールで見守る保育士を2名体制にする。	施設の安全点検	60	1.定期的	60	1.定期的	60	朝の受け入れの時間帯は落ちたり、室内遊びをしたり、室内で遊ぶ遊具を十分に用意する。	室内遊びの場合には落ちたり、室内で遊ぶ遊具を十分に用意する。	友達と遊んでいる時、友達から押されたり右腕をつままれたりした。	友達と遊んでいる時、友達から押されたり右腕をつままれたりした。	1.いつも通りの様子であった	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児のそばにいたが、他児の対応を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の登所の受け入れにしていた。	異年齢児(3-5歳児)が一緒に遊んでいる時間帯なので、どうしても活発に動きがちである。
1512	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業~午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先公園等)	7.異年齢構成	106			35	37	34				7	7	18.6歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2					2.基準配置	年長児男児は、競争心も旺盛になる。子ども達のマラソン活動への意気込みの変化に留意していない。	年長児男児は、競争心も旺盛になる。子ども達のマラソン活動への意気込みの変化に留意していない。	状況の変化に伴いマラソンコースと適切な距離を検討する。	スタート時の混雑の予測が甘かったと思われる。	マラソン活動に十分に慣れ、子ども達の気持も逸っているため、混雑を避けるため時間差を十分に取ってスタートするように考慮する。	1.いつも通りの様子であった	1.いつも通りの様子であった	2.対象児の動きを見ていなかった	スタート直後に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子把握のため、補助保育士と間隔を置いて見守りしていた。	子ども達の競争心を高め、言葉かけや見守りが十分であった。	マラソンを行う事への都度子ども達に伝え、各自の細かい配慮を怠らない。							
1513	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10									2	2	15.3歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	12					1.集団活動中・見守り	ブロックコーナーが狭かった。	ブロックコーナーを端に寄せすぎないようにし、スペースをもっと少し広げて遊ぶようにする。	ブロックコーナーを端に寄せすぎないようにし、スペースをもっと少し広げて遊ぶようにする。	1.定期的	48	1.定期的	毎日	1.定期的	毎日	特になし。	1.いつも通りの様子であった	いつもと変わらず登園する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当時、園児5人がブロックで遊んでいた。職員は全員を見守ることが出来たように思っていたが、対象児から離れたところで対象児を見ていた。その為、対象児がバランスを崩した際に、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園してきた子ども達の対応をしていたため、見ていなかった。	保護者対応に関しては、保育室の入り口等ではなくできるだけ子どもたちが遊んでいる場所に対応し、子どもを見守るようにする。			
1514	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	59									3	3	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	2					3.個人活動中・見守り	戸外遊び時は、遊具等が死傷が出るような危険な配置はして置かないように職員に配置していた。園児にも定期的に遊具の使い方の指導を行っている。	今回の事故に関する内容を職員へ周知徹底し、再発防止及び、安全保育に十分配慮するように努める。	遊具の安全点検は毎日行い、遊具に不備はなく又、総固定遊具の周りには、柔らかい砂を敷いた。	定期的に遊具の使い方について指導を行っている。又、今年度の初めにもいるな事例を上げ、園児たちに指導を行った。	1.いつも通りの様子であった	朝からいつも通り元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数の担当職員で死角の無い様に、子ども達を見守っていた。	子ども達を見守る際、危険な行為に気づいたら、片付けの準備に入らうと意識を高く持ち、事故やトラブルが無いようにしていく。											

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
1516	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	23							3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1	2.不定期 に実施		3.個人活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1519	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	66							5	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指付け根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	今回の事故は、普段飛び方をしたことの、遊ぶ場所や遊具の使い方、遊び方のルール等を徹底する。	1.定期的 に実施	開設時毎日	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	開設時毎日		1.集団活動中・見守りあり	なし	1.いっぽりのおりの子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	指導員3人で、全体的に児童達の遊びの様子を見ていたが、普段の飛び方ではない飛び方をすることなど予期していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の活動の監視を怠っていたため、見守りができなかった。	見守り位置での監視を怠っていたため、遊びの監視がなされていた。	外遊び時の見守り指導員を確保し、目が行き届くよう配置する。監視エリアを定め、巡回しなごりや遊び方の指導を行う。
1520	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	65							7	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指不全骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施		1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いっぽりのおりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	痛がってうずくまっていたが、歩けなくなったので、すぐに施設に連れ帰って様子を見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と関わっていた。	特になし	遊びやスポーツのルールの周知、徹底。	
1521	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							3	2	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨類上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	今回の事故について未然に防ぐとすれば遊びを禁止することが挙げられるが、児童の静の遊び・動きの遊びを確保する観点から考えると禁止することは難しく、具体的な改善策は挙げられない。	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施		3.個人活動中・見守りあり	今回の事故は、地域のスポーツ団体との小学校校庭の利用についての取り決めがあることから室内外遊びをすることが出来ず、室内で動きの遊びの遊びの住み分けを行った上で起き、改善することは難しい。	1.いっぽりのおりの子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児童も含め遊び・見守りを行っており、ボールの行方を目で追いつつ全体を見守っていた。本児が転倒する場面も見ていたが、手を差し伸べて届く距離には居らず、未然に防くことは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、3名の職員がいたが、1名は事故発生現場に居り(動きの遊び:児童8名)、別の職員は別部屋で他の児童を見守っており(静の遊び:児童11名)、もう一人の職員は事務室で事務作業を行っていた。	事故発生直後の異変を感じ、直ぐに別室に居た職員・事務室に居た職員と連携をとって対応に当たっており、更なる改善は難しい。				
1522	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	45							7	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	支援員等の配置は十分であり、ソフト面に改善策なし。	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2	3.個人活動中・見守りあり	当該事故において育成支援の状況に問題がないため、改善策なし。	1.いっぽりのおりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	うんでいて遊ぶ児童数名を、すぐそばで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭の全域に目が届くよう、各所に散らばって児童の見守りをしていった。	支援員等の見守り体制について問題がないため、改善策なし。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析													掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者				発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	ソフト面 マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他						
1523	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	59								5	2	20.8歳	2.女児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨及び右尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置		支援員等の配置は十分にあり、ソフト面に改善策なし。	1.定期的 12	2.定期的 12	1.定期的 2	2		当該事故において育成支援の問題がないため、改善策なし。	3.個人活動中・見守りあり			1.いっぽりの子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各所ばらばらで児童の見守りをしていなかった。	その他	見守りの人数は十分であったが、ネットが鉄棒が見えるような位置関係になっていた。今後はどの遊具でも直接見えるよう見守り方を工夫する。
1523	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	33								3	3	21.9歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 6	1.基準以上配置	子ども一人ひとりの職員では、特に子どもに十分注意する。会で共有し、検証する。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	12		・遊具を使う時は、安全に対する意識をもたせていく。 ・ブランコの設置場所は危険で大きな事故につながるため、十分注意するよう子どもに伝える。	1.集団活動中・見守りあり	・ブランコについては、今年度以上「立ちを許可」する。 ・ブランコには、今年度以上「立ちを許可」する。 ・ブランコについては、今年度以上「立ちを許可」する。	1.いっぽりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・当日は、少年野球の練習があった。 ・野球のネットがある。火曜日は禁止として、常態下で遊べる状況が難しく、様子を見ることが多かった。	少年野球のある、火曜日はブランコを禁止として、常態下で遊べる状況が難しく、様子を見ることが多かった。			
1526	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27								19	1	21.9歳	1.男児				8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	8.その他	1.あり	3.未実施	2.基準配置	平素より災害マニュアルにより避難訓練を行っていたが、今回の事件では職員対応、避難ルート及び近隣の連携が大いに生かされた。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	12		子ども園内の児童クラブの為、市内の児童クラブとは異なるので各児童クラブの施設環境等を充分把握し適切な対応が必要と思われる。	1.集団活動中・見守りあり	子ども園内の児童クラブの為、市内の児童クラブとは異なるので各児童クラブの施設環境等を充分把握し適切な対応が必要と思われる。	1.いっぽりの子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が犯人から離れたことで対象児を見ていた	防犯マニュアルを作成し、見守り等職員体制及び保護者への引渡し時等の体制を再確認する。	防犯マニュアルを作成し、見守り等職員体制及び保護者への引渡し時等の体制を再確認する。			
1526	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	44								5	2	21.9歳	2.女児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の間での衝突	1.あり	1.定期的 1	2.基準配置	特になし。	なし。	2.不定期 12	2.不定期 12	2.不定期 実施		特になし。	3.個人活動中・見守りあり			1.いっぽりの子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室Bにて、他の児童の遊びに対応していた。	特になし。	なし。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故原因		ソフト面				ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故原因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1531	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	9									3	2	19.7歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上前腕上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	該当場所では遊ばない。	遊ぶエリアを変えたい。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	継続的に点検を行う。	1.集団活動中・見守り	校庭ではなく、広場であったため、危険なところがあった。	危ないと思われ、個所を直止区域の周知。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児が離れたところから対象児を見ていた	全体を見て居た支援員2名、アルバイト1名	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は各所に配置して見守っていた。	学校では登って遊んでいる場所であったが、学童ではだめだと話していたので、まわりの登ることは考えなかった。	
1532	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	140									8	2	19.7歳	1.男児			7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	保護者が目を離してしまっていた。	自動車に乗るまで子どもの目を離さない。	駐車で立ち話などはせず速やかに帰ることを守る。	7.その他	子ども達に迎えが来たらすぐに保護者とうわすをかける。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の帰宅準備を手伝っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の帰宅準備を手伝っていた	駐車場で事故が起きたら直ちに支援員に知らせてもらうよう徹底する。					
1533	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	82									9	1	18.6歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	児童の様子にもっと気を配る。	庭の樹木、ブロックなど危険はないか。	1.集団活動中・見守りあり	常に見回り。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	泣き声を聞き素早くそばへ行き対応ができていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	軽い打撲と判断し、支援員等に伝えることができなかった。	雲梯の近く支援員等を配置。						
1534	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30									4	3	19.7歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手機骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	2.不定期実施	3.基準以下	6月よりさらに補助員を3名増員して交代要員を増やしたり、ゆったりとした児童への対応ができていなかった	ドアを開けたまま固定できないため、ドアストッパーを使用している。	ストッパーをはずす悪戯防止のため、ストッパーに紐をつけ、持ちやすいようにする。	3.個人活動中・見守りあり	子ども達に危険がないようにドアを押さえていた。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児が離れたところから対象児を見ていた	悪戯をしている他児に注意しながら、出入りする子ども達に危険がないようにドアを押さえていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	出欠確認をし、連絡帳に返事を書きながら様子を見ていた。	子ども同士とどりで解決できることを期待し、見守っていた。	子どもの行動を予測し、安全に立ち位置で対応する。				
1535	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先公園等)	8.学童	58									4	2	18.6歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節上部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	引き続き毎日の人員を確保し、職員にマニュアルの周知を徹底する。	施設・遊具の点検は引き続き安全点検を実施し、玩具についても点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	プランクの近くで対象児を含め5名の児童を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	プランクの近くで対象児を含め5名の児童を見ていた。	子どもの行動を予測し、安全に立ち位置で対応する。							
1536	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40									4	0	18.6歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.なし	1.定期的実施	市の研修に積極的に参加し、事故予防への意識を高める。職員内での話し合いを増やさない。	中央がロッカー、本棚などで分断され、死角になる場所がある。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びができる公園・校庭などを併設していない。	身体を使った遊びや木や土の運動を計画中。	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	平素は落ち着いていて、当日は言葉や暴言や攻撃的な態度が見られた。	3人で遊んでいて、危険な行為が見られたので声を掛け、注意した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務カウンターで打ち合わせを行っていた職員と所内を巡回している職員がいた。	全体のルールとして、所内での激しい動きを止めるルールが、そのよう動きを見守る際に直接制止でなく声掛けで対応していた。					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳											0歳	1歳	2歳		3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置		その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1537	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	44									4	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右趾間接捻挫(第1趾、右母趾間接靭帯損傷)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施					1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	安全な環境づくりに努め、事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	なし	今後子ども達に対して落ち着いて行動するよう話をしていく。	1.いっぽりのお様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事業の参加者全員を見渡せるように適切な場所で見えていた。至近距離の児童(本児を含む)について、特に注意して見ていた。本児が痛みを訴えた後も「帰るのでもいいです。」という祖母に待ってもらい、患部の確認と処置をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事業の参加者全員を見渡せるように適切な場所で見えていた。自近距離の児童について、特に注意していた。1名は、患部の確認と処置を一括に行った。	なし	今後も適切な人員配置と子ども達への言葉かけと見守りを行っていく。
1538	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地外(園庭・校庭等)	8.学童	80									6	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左肩鎖骨骨折	3.子ども同士への衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1						1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	小学校の校庭で起きたが、特に問題は改善策はない	1.集団活動中・見守りあり	校庭で自由遊びの時間帯だったが、トラブルに早く気が付くように目を配っていききたい	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭での遊びの際、3名の職員を配置していたが、職員は対象児のトラブルに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で自由遊びの時間帯だったが、子どもたちが分散して遊んでいて、職員は対象児のトラブルに気が付かなかった。	なるべく子どもたちの様子を把握できるように人員配置ながら体制をとっていく。		
1539	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	54									5	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手人差し指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	5						1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検の強化。	3.個人活動中・見守りあり	放課後、登館した時の状態を的確にとらえ、必要に応じて支援を行う。	3.いっぽり活動的であった(理由を記載)	保育所時代の友達と廊下を走って図書室に入って戸を閉めて遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	「廊下を歩きましょう」「遊戯室で遊びましょう」と児童のそばを歩いていたが十分ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室、クラブ室、庭で遊びの見守り・支援、事務室で出欠確認を行っていたが連携が十分ではなかった。	落ち着いて遊べるような遊びの働きかけを職員間で連携して行う。
1540	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22									7	3	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右くるぶし骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	4								施設外での事故のため記入事項なし。	施設外での事故のため記入事項なし。	施設外での事故のため記入事項なし。	施設外での事故のため記入事項なし。	施設外での事故のため記入事項なし。	施設外での事故のため記入事項なし。								

No	概要				発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしてたか		他の職員の動き 具体的に何をしてたか	その他要因・分析・特記事項	改善策													
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学童	その他										
1544	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49							6	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	11							1.ボール等が飛んできていない校庭の端の平らな地面で遊ぶが、足につけてしまったボールを飛び道具を複数使用する。使用方法が不適切でなかったと考えられる。	3.個人活動中・見守りあり	上手に飛べたため2発まで発射されたが、発射されたボールが足に当たったことでは想定外ではなかったと考えられる。	正しい使い方をしても、転んでしまつたことがあつた。足に当たるとは十分想定で遊んでいたので、発射時のボールの弾力に十分留意する必要がある。	1.いっぽもどりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	そばに支援員がいた。すぐに足に付いて手を添えて入った	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	新1年生の初めての校庭遊びの支援をしていた	日頃から他のクラブの状況について情報共有し、事故防止の注意を促している。	事故についてのクラブの情報は法人内でも共有し、再発防止に努める。								
1544	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38							6	4	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2					各活動や遊びに対して、事故を予想した防止策を学び、身に付けていく必要がある。	ごまめに研修を行い、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	50		特になし。	引き続き、毎日の点検を行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	転ぶ際にお尻や背中など、転倒の仕方が危険。	乗り方を基礎からバランス感覚を鍛える。また転び方を教える。	1.いっぽもどりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危険な乗り方、遊具を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	全体の様子を見守っていた。	職員が正しい方法を見守っていた。	職員間で安全な乗り方を指導し、指図を行っていく。
1543	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	95							8	4	20.8歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施							急な職員を想定したシフトを組めるよう努める。	「階段は歩こう」といった表示を行う。	3.個人活動中・見守りあり	普段の生活で当たり前の生活で、失念し怪我を伴う事故を伝えて、どう気を付けていたらよいかを伝える機会を設ける。	3.いっぽもどりの様子であった(理由を記載)	おやつが終わる時間よりも引いたため、早く遊ばなかった。	4.対象児の動きを見ていた	部屋に児童が居なくなり、部屋の片目を消していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	階段は子どもが遊んでいないため。	子どもがいる場所には怪我をする危険性があるという事を再度確認し、出来る限り死傷が無いようにする。										
1544	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							2	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	3.子どもとの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回					遊びに熱中している時の、低学年児童の周辺視野が狭いことの一因。	事故は施設・設備などとは無関係であるため、改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	事故は環境面とは無関係であるため、改善策は特になし。	1.いっぽもどりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	当該児童を含む低学年グループを担当し、見守りを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	高学年グループとゲームを行っていた。	支援員による活動の前指導の注意喚起が不足していたが、具体的な事故防止の方法は伝えてなかった。										
1545	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							2	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施						遊具使用の際の使い方、注意点を対象児や他の子どもたちに繰り返し伝えていく。	遊具使用の際の使い方、注意点を対象児や他の子どもたちに繰り返し伝えていく。	3.未実施		1.定期的 に実施	1	2.不定期 に実施		なし。	なし。	1.集団活動中・見守りあり	遊具使用の際の使い方、注意点を対象児や他の子どもたちに繰り返し伝えていく。	1.いっぽもどりの様子であった	4.対象児の動きを見ていた	室内の子どもの見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	遊具使用の際の使い方、注意点を対象児や他の子どもたちに繰り返し伝えていく。				

No	概要				発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの状況			事故状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日																					
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制								教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面			人的面																			
					人数	異年齢構成の場合の内訳						学童						死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策												
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													
1546	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	12													1.19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左下腕(左手首上)骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的	12	1.定期的	2	1.定期的	1	1.定期的	2	通常の滑り台で、遊具自体には問題は無い。引き寄せ安全点検を行う。	安全点検は実施しており、遊具には問題は無い。引き寄せ安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	環境面に問題はなかったが、児童自身に周りの環境が危険かどうか判断できるように指導していく。	1.いっぽもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の下から見守っていたところ、対象児が滑っている途中で滑り台の外へ落下したため、駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童(滑り台の他)を見ていたため、対象児と接見しなかったため、泣き声を聞き、駆けつけた。	特になし。	事故発生後、応急処置も遅滞なくあり、引き続き徹底していく。	
1547	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	61													1.19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腕部)	右鎖骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的	1	1.定期的	開設時毎日	1.定期的	12	1.定期的	開設時毎日	1.集団活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	なし。	定位位置における見守りだけでなく、巡回しながらの見守りや遊びの指導を行う。	1.いっぽもどりの様子であった	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児が雲梯をすする時、手なつて、と指導員が抱きかかえて進んだ時、対象児が手をつたため、2人も倒れこんだ。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の別の場所の見守りをしていなかった。	指導員が抱きかかえて練習させているが、高に防げるような足場がないため、子どもが手とバランスを崩すことになる。	事故を未然に防ぎたい。遊具の使用や学年等を安全にしておく。		
1548	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27														20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首刺傷骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的	12	1.定期的	1	2.不定期	1	今回の事故については特に問題がなかったと考える。	危険な可能性がある場合には、注意喚起を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	児童各々が活動中は、教室内に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が届くようにする。	1.いっぽもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児等を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りをしていなかった。	数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が届くように見守りする。				
1549	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	54														20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期	2	2.不定期	2	1.定期的	支援員が毎日実施	1.定期的	2	1.定期的	支援員が毎日実施	遊具の使用ルールには、遊具の近くで遊ぶ児童について、危険な遊び方をしていないよう注意して見守る。	1.いっぽもどりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	最寄りの職員は転落時には遊具と反対の方向にいた児童の見守りをして、落ちた直後に付近で遊んでいた児童に呼ばれ、児童の怪我に気づき、保護者への連絡等を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場から離れた他で見守りしていた。	怪我をした児童は、1年の時から同じ学校で、放課後児童クラブを利用して、2年以上学校の遊具で遊んでいるので、少し油断がとられる。	遊具利用時の注意事項を改めて児童にわかりやすく指導する。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1550	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39								6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	怪我のリスクが高い場所を認識出来ていなかった。	怪我のリスクが高い場所に人を配置し、子どもがその場所に行かないようにする。		2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	6			施設内だけでなく、施設外の校庭での点検が不足し、危険性を認識できていなかった。	校庭での点検をしっかりと行い、危険箇所を把握する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども自身が危険な場所を認識できていなかった。	支援員から子ども達に危険箇所を伝えていく。	1.いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもがやっているのぼり棒の様子を見ていたが、その時に滑って転んだのを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う遊びのトラップになっている子ども達の仲裁が当たった。	職員全体で危険箇所の把握が出来なかったため、その場所以外に人が配置できていなかった。	職員で改めて危険箇所を配置する。
1551	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指の骨折(右橈骨若木骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	該当児童が転倒した際、手の付き方が骨折の怪我につながった。	支援員・補助員が特に気を付けていることは、行動が活発な児童については、目を離さず常に結び付くことを予測しながら保育を心がける。		2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施			1.集団活動中・見守りあり	外遊びの際は、一人の支援員が追いかけて遊ぶ児童を見守っている状況であり、「転ばないように気をつけなさい」と声をかけていた。	1.いつも通りの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	外遊び時は、広範囲になるが、放課後児童支援員が怪我のないよう注意していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び時は、保護者の迎えを待つ時間帯は、児童の疲れがピークであり、注意の低下が起きている可能性があるため、この点で活動内容や日課の設定が必要である。	体育倉庫横には、切り株があり、遊びで足を引っかけて怪我につながる可能性があるため、今後体育倉庫横側には近づかないように注意する。						
1552	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							4	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨骨折及び右腕尺骨脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	マンニアルを基に整備時の対応方法を再確認し、引き続き研修等で応急手当の技術向上を図る。		3.未実施	3.未実施	3.未実施			1.集団活動中・見守りあり	段差や凹凸のない床であっても転倒する危険性について説明し、少しでも意識できるようにする。	1.いつも通りの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	審判としてドッジボールのメンバーを全員見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	建物1階で他児童の対応をしていた。	保護者の迎えを待つ時間帯は、児童の疲れがピークであり、注意の低下が起きている可能性があるため、この点で活動内容や日課の設定が必要である。							
1553	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							4	4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	職員配置等に問題はなく、ソフト面には起因しない。		1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	12		1.集団活動中・見守りあり	遊具に不備はなく、ハード面には起因しない。	1.いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数の児童を見守っていたため、少し離れた場所に見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童を見守っていた。	全ての職員が全ての児童の動きを見守ることは困難であり、偶発的な出来事の場合は防ぎようがない。							

No	概要		発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生要因分析							掲載更新年月日																																				
	初回掲載年月日	認可・認可外 施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面																																												
					人数	異年齢構成の場合の内訳										0歳	1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	2.骨折	診断名		マニピュラルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況 その他要因・分析・特記事項	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策																				
1555	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6		8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	44																																								3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	1	2.基準配置	
1555	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	69												6	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨・尺骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置							勝ち負けを競う遊びの中で、勝敗に強いこだわりをもち、勝ち負けの差が大きいことを気にし、危険な行為に対して更に適切な声をかけようとする傾向がある。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12		見守りに隙が生じ、職員間の情報共有が不十分であった(近距離での活動があったため、お互いの動きを把握しきれなかった。	1.いつもどおりの子であった	2.対象児と対象児を見ていた	職員が審判としてドッジボールの進行を管理し、必ずついて声が行っている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	巡回のような形ではあるが、他の部屋活動も含めて全体の把握にあたりていない。	職員個々が児童の見せるどききやトラブルに対応できるように、職員間の連携を強化し、活動全体の把握を徹底させる。									
1556	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	33												3	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切り裂き等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置							遊び場を制限されている中で油断せず、全体及び個々の動きを確認する。	3.未実施							P T A総会のための校庭の使用を制限しており、近日常に陸上練習を兼ねてバスケットコートを使っていること。	1.集団活動中・見守りあり		遊び場を制限されている場合、行方不明の子や遊びのルールを守れないように見守る。	3.対象児から離れたところで見守っていた	校庭で遊ぶ児童をすべて見守っていたため、駆けつけが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶ児童の安全を確認し、見守りを行っていた。	遊びのグループを対応できるように、2-3グループに1人の職員が見守れるよう体制にする。							
1557	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	45												3	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1	2.基準配置							当該児童は幼児の頃より木登りなどの危険な遊びが好きで、運動神経がすぐれた。	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	12		特になし。	なし。	1.集団活動中・見守りあり		当該児童は、木登りや滑り台など危険な遊びをする傾向があり、周囲の状況を確認し、安全に遊ぶよう指導している。	2.いつもどおり(元気がなかった(理由不明))を記載した。	滑り台を逆方向から、途中から降りた。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	突然の出来事だったので、注意がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童も活動していたたけ、児童の動きに注意がなかった。	見守りを行っていた児童も運動神経を考慮し、児童の動きに注意がなかった。	滑り台などの危険な行動に注意し、児童の安全を確認し、児童の安全に配慮した。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面					環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策													
1558	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31									2	20.8歳	1.男児						1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	危険と思われる場所の児童の立ち入りがないように厳重に注意することを指導員の間で共有し、対応する。	1.定期的実施	随時	1.定期的実施	随時	1.定期的実施	随時	危険と思われるものや、極力危険と思われるものを撤去する。	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	1.いつもどおり様子であった	4.対象児の動きを見なかった	本児を含めて校庭裏の様子を見守っていたが、他児の対応ができていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の指導員は担当を見守っていたため、本児が危険と思われる場所に入っていた様子ではなかった。	指導員が担当する児童の様子を見ただけではなく、視野を広げて広い範囲で児童の様子や動きを確認しながら安全配慮に努める。指導員の間で児童の様子をこまめに共有し合い状況を把握する。	
1559	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	66									5	19.7歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨端線離断	3.子ども同士の間での衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアル、研修ともに実施していない。	事故予防に関する研修を実施する。または、同様の研修会に参加する。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	10	1.集団活動中・見守りあり	危険を回避する声が出なかった。	1.いつもどおり様子であった	4.対象児の動きを見なかった	支援員は、遊具の見守りの方針に注いでいて、ドッジボールをしていた対象児は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭では支援員1名で遊んでおり、そのうち3名が遊んでいたが、補助員は他の遊具を見守っており、ドッジボールを遊んでいた対象児は見えていなかった。	2.5名の児童が4グループに分かれて遊んでおり、そのうち3名が遊んでいた。そのうち2名は遊具以外の場所で遊んでいた。そのうち1名は遊具以外の場所で遊んでいた。そのうち1名は遊具以外の場所で遊んでいた。	2.0名以上の児童が校庭へ遊びに出る時は、3名の職員が見守りをする。そのうち1名は遊具以外の場所で遊んでいた。そのうち1名は遊具以外の場所で遊んでいた。		
1560	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45									5	19.7歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	年に1回研修を行い、怪我や病気に対する危機管理を学んでいる。	遊具が近くで遊んでいるときに、近くに遊ぶことで、事前に危険に気づかずに遊んでしまった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守りあり	遊具などで遊んでいるときに、近くに遊ぶことで、事前に危険に気づかずに遊んでしまった。	1.いつもどおり様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見つけていた	少し離れた場所で見つけた。対象児が落下する瞬間を見つけたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場の離れた場所で見つけたため、見えていなかった。	4月に人事異動があった。支援員体制が変更された。	人事異動があっても、密にチェックを行って行く。		
1561	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	68									5	20.8歳	2.女児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右眼瞼打撲	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	遊戯室の見守りに死守ができてしまった。	遊戯室の見守りを複数職員にする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守りあり	見守りの職員を複数にする。	今回は遊戯室の見守りを複数で行う。	1.いつもどおり様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見つけていた	ドッジボール中、複数の児童の動きを見守ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッジボール中、複数の児童の動きを見守ることができなかった。	複数の職員の見守りが必要だった。	複数の職員の見守りを要する。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析													掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																						5歳以上
1562	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	7								3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首横骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	土曜日子ども数も少ないが、外遊びに出られる支援員の人数も減らされていた。	支援員全体で、屋内外の遊び等の情報共有をしていく。		1.定期的 240	2.不定期に実施	2.不定期に実施		使用する前には、滑らかな状況や固定遊具の周囲の状況を確認する。	固定遊具の高さの適正さ。	3.個人活動中・見守りあり	子どもへの遊具の使い方や遊び方を、遊具行為を周知しなかった。	遊具の使い方や遊び方、及危険な行動や注目を定期的な全体へ周知していく。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見つけた	本児がジャングルから飛び降りようとする行動に対し注意を促すが、他児に他へ目を向けたため、飛び降りる瞬間は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見つけた	他児の見守りをしていたいなかった。	注意喚起が周知できなかった。また、定期的な遊具の使い方や遊び方を全体へ周知していく。	
1563	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	4.昼食時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43								7	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕頭部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 6	2.基準配置	普段以上に気をつけている時の注意点を職員間で共有していく必要がある。	マニユアルにはない時期せぬ事故もあることを、今回の事例として主任会議だけでなく、施設職員とも共有し、対応等について検討していく。		1.定期的 359	2.不定期に実施	1.定期的 293	1.集団活動中・見守りあり	職員は児童の行動範囲内に配置しており、「走らないうい」等が倒した際に、転倒した際に、物を落とす危険性を理解して、指図していき。	今回、お弁当を持って手袋が濡れていたため、転倒した際に、物を落とす危険性を理解して、指図していき。	職員はロッカー室に近づくための近距離にいた	1.いつもの様子であった	2.対象児の動きを見つけた	学童室内の受付担当はロッカー室に近づくための近距離にいた。また、ロッカー室前には職員がいた。(うち1名は対応のため)	走ってはいなかったが、靴下を滑らせたことで、より滑りやすかったため、靴下を脱いで活動するよう促していく。	今後も今までどおり落ち着いて過ごすことへ、物を持っている行動は時には事故を生むことにもつながるため、靴下を脱いで活動するよう促していく。					
1564	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	76								2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 12	1.基準以上配置	引き続き明確な問題は無い。引き続き安全点検を行う。	引き続き明確な問題は無い。引き続き安全点検を行う。		1.定期的 2	1.定期的 1	1.定期的 2	1.集団活動中・見守りあり	環境面はな問題はないが、児童自身の環境が危険かどうかを判断できるように指導していく。	1.いつもの様子であった	2.対象児の動きを見つけた	スタート位置から見守っていたところ、対象児童が途中でバランスを崩し、倒れたため駆けつけた。	他の児童を見守ったため、対象児童を直撃していなかった。泣き声を聞き、駆けつけた。	事故発生後、応急処置、病院への受診が速やかに行われ、引き続き徹底していく。							
1565	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39								2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	列になつて歩いていたが、前方の児童が先頭を歩いている職員を追い越す。それを止めようとして職員も早歩きになり、列の前方で後方でも列の間が空いてしまふ。そのため、後方児童が列を詰めようとして走り出した。	事故発生当日全児童へ先頭を追い越すことがないよう、そして列が離れたら待つようにと児童へ指導した。誘導する職員も列の全体に気を配り、ペースが速くならないよう声をかけ、十分に気を配る。		2.不定期に実施 随時	2.不定期に実施 随時	2.不定期に実施 随時	1.集団活動中・見守りあり	こまめに止まり、走らないよう目を配る。	1.いつもの様子であった	列から後方を取り、追いつこうと走る。	列の先頭と最後尾に配置し、2列にさせて移動。列を崩さないよう声をかけ、間が空いたため止まるように指示する。	2.担当者・対象児の動きを見つけた	後方から安全見守り、声掛け。	指導不足。	研修を通して指導力向上を図る。職員同士の意見交換をするなど、横の連携に努める。					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析													掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳											死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上																													学童	その他					
1566	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	48							7	4	23.11歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置						レクリエーションの為、学校施設である体育館を借用した。事前に安全を確認し、滑りやすい等の問題がない事は確認していたが、今回のケースへの対応を検討する。	1.集団活動中・見守りあり					2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	4.対象児の動きを見なかった	昼食後の挨拶をするために児童を待たせていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童を待たせていた	着席しないで走り回る下級生を静かさせるために追いかけた。	着席する際のルールに従って児童はもとより児童とも確認する。
1567	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30						6	5	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置						ブロック遊び中、ブロックの取り合いになりブロックの上に座っていた際に押されて落下した。	1.集団活動中・見守りあり					1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	人数が増え、室内で普段しない行為が行われたため、そちらに目が向いてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各自の部屋やお迎えの対応をしていた。	人数が増え、室内で普段しない行為が行われたため、そちらに目が向いてしまった。	ホールの担当を1名にしているが、使用する人数が増えた場合は2名に増やす。	
1568	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	72						6	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置						施設等に問題はなく、ハード面を考慮すると防くことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり					1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	事故現場が支援員から石山の裏側であったため、直接児童が見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の場所でも外遊びをしていたため、事故現場を見なかった。	特になし。	遊具を使う等の危険度の高い遊びについては、支援員の配置数を増やすようにする。	
1568	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26						4	1	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置						施設等に問題はなく、ハード面を考慮すると防くことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり					1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	子どもたちが一面に囲まっており、その児童が他児に隠れていて、支援員から直接見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他にも別の室内遊具を遊んでいる児童がいたため、事故現場を見なかった。	特になし。	遊びの危険度に応じた支援員の数を増やすようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況		事故発生の要因分析																	掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因		ソフト面					ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡	負傷	診断名		死亡	負傷	負傷	負傷	原因																														
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他					死因	負傷状況	受傷部位																																	
1570	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	59							5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右肘骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの		3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアル、研修なども実施していない。	事故予防に関する研修を実施する。または、同様の研修会に参加する。	1.定期的	1	1.定期的	1	1.定期的	1							グラウンドの整備状況にも踏みやすい石など無いか確認する。	1.集団活動中・見守りあり				1.1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭では支援員1名、補助員1名で見ていたが、補助員は事故現場から50m離れた場所で見守っていたが、補助員は捕り手の見守りをしなかった。		遊戯に一部参加するなどして児童の遊戯がエスカレートしないよう抑制していく。
1572	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15	2	2	3	5	3		3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首側離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	3~4	2.基準以上配置	今回の事故では、人的配慮が不足していた	本児の運動神経や力を養う活動が多くなり、家庭ではカルシウムを買って骨を強くしようと努めている	1.定期的	12	1.定期的	48	48				今回は遊ぶために柔らかいマットをしき、周りに危険物やつまづきやすいものはなかった	1.集団活動中・見守りあり	当時は異年齢で遊んでいたが、特に無理な構成はなかったと思います	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の動きを見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じように全体を見ながら遊んでいた	子ども一人ひとりの遊んでいる様子を傍で見る							
1573	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16							13	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	1~2	1.基準以上配置	担当保育教諭は連絡の記入に専念できず、子どもの様子は他の保育教諭を配置する。		1.定期的	12	1.定期的	12	2.不定期				今回の事故は、園庭で自ら転倒して起きたことからは、ハード面での問題はなかったと思われる。	2.集団活動中・子どものみ	今回の事故が起きた際の保育環境は、事故を誘発するような環境ではなかったと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	休憩中であつたり、他の園児の午睡の見守りに入っていた。	担当保育教諭は連絡の記入に専念できるよう、子どもの様子を他の保育教諭を配置する。								
1574	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス									16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折		1.遊具等からの転落・落下		1.あり	2.不定期	1.基準以上配置			2.不定期	1	12								保護者に引き渡し後に起こった事故であるため、保育者の把握での事故であった	7.その他	友達と遊んでいて、遊具に登り、降りる際、右肘から転落	対象児の手当てをし、医者に同伴	園庭にて、他児を保育中	保護者に引き渡し後に起こった事故であるため、保護者への啓蒙や注意喚起、遊具周辺の見回り等の強化									
1575	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児									17.5歳	2.女児	2年前に右ひじから手首の関節を怪我した	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	3.骨折	4.上肢(腕・手)	2.自らの転倒	2.自らの転倒	1.あり	1.定期的	2.基準以上配置	床はクッションフロアのため、衝撃が弱かった		1.定期的	1	1.定期的	1									1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の動きを見ていなかった	課外での活動であり、専門の講師が担当している	本児は2年前に右腕を骨折していた。保育するうえで特段の配慮が必要な状態ではなかったが、転倒した時点で他の子供を心配したため、外見上の異常はなかった。	保育するうえで特段の配慮が必要な状態ではなかったが、転倒した時点で他の子供を心配したため、外見上の異常はなかった。								

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析															掲載更新年月日				
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面									
					人数	異年齢構成の場合の内訳											死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1575	12月28日	認可外 こども園	9月 ～夕食提供前	保育園内	クラス	13	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	0	0歳	児	木骨折している。	動中	傷	傷	手・手指	木骨折	衝突によるもの	あり	に実施	1 配置	なし	なし	に実施	12 に実施	12 に実施	12 に実施	12 は他の床材よりは軽減されている	なし	下りあり	なし	ソング子であった	対象児を見ていた	2名で指差をなっていた	見ていなかった	求めに応じて対応することができていた。	過去の木骨折から、今回のケガの可能性もあつたことを理解して、より早く受診をすることができていた。	講師とも過去の既往歴を共有することが必要。
1576	平成29年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	8月 夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40	6歳	6歳	17歳	17歳	7	18.6歳	1.男児	視野欠損	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	右鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	1.3 基準以上配置	本児視野欠損があること、若干の多動傾向が見られる事から日常的に注視していた。	常に危機意識を持って保育にあたるよう、注意喚起や研修を適宜実施する。	より細かい、安全点検チェックリストの作成を検討する。	3.活動中・見守りあり	・午後や休み明けで、園児が見られる戸外遊びは、配慮する。	1.いつもより様子であった	通常より視野の狭さや注意が移り易い特性があり、週初めの疲れがたまっていた。	3.対象児から離れたところで見守りながら、園児の動きを見ていた	本児がカーサで遊んでいるのを、園児の動きを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別な固定遊具の遊びに、張り付いていた。	週初めて身体が鈍く、回避能力が落ちていたのかもしれない。	今以上に、本児の観察をきめ細やかに、事前の怪我防止に努める。							
1577	平成29年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	8月 午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	8	4歳	13.1歳	13.1歳	1.男児	4	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	8.その他	1.あり	3.未実施	2.基準配置	事故の予防、対策の周知が徹底されていない。	マニュアルを見直し、職員間で周知している。ひやりはつを活用し、研修に繋げ、職員間での事故の予防、対策に対する意識を高める。	現在の設備を園児が安定した状態で洗い出せるように変更する。	1.定期的 に実施	12 に実施	12 に実施	12 に実施	毎回	6.食事(おやつ)中	ソフト、ハード面を見通して改善を行うことで、安全に手洗いをを行う。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	発熱等の体調不良によって、しばらく欠席が続く、久々の登園ということもあり、機嫌が良かった。	園児の背後を支えながら、上から腕を回して、手を添えて洗っていた。園児が悪戯したときに、体を曲がり、高さを保持出来なかった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配膳の準備と他園児の準備、排泄の対応。	必要不可欠な事柄とはいえ、日常的な行動ばかりを優先するのではなく、園児の状態の安定に配慮する。			
1578	平成29年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	8月 夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10	1	16.4歳	16.4歳	1.男児	1	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	3.基準配置	室内では落ち着いた生活指導を行う。危機対応サークルによる安全確認を行う。	子どもへの動きに対する認識の甘さ	月に一度の決まった時だけでなく、いつでも安全確認を行うようにする。	1.定期的 に実施	12 に実施	12 に実施	12 に実施	毎週1回	1.集団活動中・見守りあり	友達同士の間を歩いて遊んでいた。	友達同士の間を歩いて遊んでいた。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達とふざけ室内を走り、足につまづき転倒した。	3.対象児から離れたところで見守りながら、園児の動きを見ていた	子どもの様子を見ながら折り返す方が、子どもを捕らえ、側から離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任一人であった。	動き回らないこと等、注意事項が不十分であった。	改めて室内での約束を全員で確認していく。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因				ソフト面				ハード面				環境面				人的面											
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1579	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10月 朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	研修、職員配置等の改善を行い、事故防止に努めた。	1.定期的に実施	週に1度	1.定期的に実施	週に1度毎日の点検、確認	1.定期的に実施	週に1度	園庭でのつまずきが無いうように、園庭の整備を行った。	1.集団活動中・見守りあり	園庭での集合時において、危険を伴わないよう声掛けや、職員についても視野を広くし、園児の状況を常に把握できるよう改善を行った。	1.いつも通りの様子であった	元気がよく遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で、活動に入る前、園児に集合するように声掛けをした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で、活動に入る前、園児に集合するように声掛けをした		常に園児の状況を把握できるよう職員や園児の言葉掛けを行うようにした。
1580	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10月2日 午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	76	26	24	22	8	8	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩・鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	園内研修の内容を見直し、事故防止に対する職員の意識を高める。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特に問題はないと思う。	1.集団活動中・見守りあり	園外であったため、子供たちの気持ちは高ぶっているように思う。	かけっこが安全にできる環境を整え、職員は危険がないように見届けをする。	1.いつも通りの様子であった	競争心が芽生え、興奮気味になっていたのと同じ周りが見えなくなっている。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	かけっこをしていたが、瞬間的に園児とぶつかり転倒したため、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を順番に並ばせ、他の準備をしていたため、見ていなかった。	保育教諭の人数は多かったが、園外であったため、保育教諭も園児も気が高ぶっていたかと考えられる。保育教諭は運動会が間近だったため、焦っている様子も見受けられた。	保育教諭が適切な声掛けを行い、いとも以上に気に掛けることが大切である。				
1581	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	17日 午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69	17	17	28	24	17	17	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左横骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	事故防止の研修を何回も実施し、危険な場所、時間帯について一層の注意を図る。バス待ちの職員配置を一名増員する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	3	除雪で雪が積もる高さがある。	1.集団活動中・見守りあり	園庭に、雪で遊んでいる時に、友だちを押しつぶすように注意を行う。	1.いつも通りの様子であった	友だちを押しつぶした園児に対して、危険なことに対する認識を持ってもらおう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見るときに、個々の園児に対しても危険な遊びをしていないかを配る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員同士を声掛けを行い、人数が足りなかったときは、援助を頼む。	園児に精察に声掛けを行う。職員同士で連携して声掛けを行い事故防止に当たる。						
1582	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10月2日 午前中	1.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	2	6							4	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創)	4.上肢(腕・手・手指)	左第3指	8.その他	2.な	1.定期的実施	2.基準以上配置	市作成の事故予防マニュアルを、誰もが手取りやすく、すぐに閲覧できるように常備する。また、職員一人一人が改めて懇切丁寧な保育を行うことを	2.不定期	2.不定期	1.定期的	4.取り扱う	施設・遊具・玩具の安全点検を定期的に行うこと。また、今後は事故を予見、予防するための研修を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	机を片付ける際、安全を確認できず危険を伴う場合は、机を置いておく。	机などの保育用品を移動させる際は、子どもを落とす危険な場所へ移動させない。	1.いつも通りの様子であった	事故当日、対象児に特定の動きがあった	4.対象児の動きを見ていた	それぞれ役割を遂行している中、子どもたちもそれぞれの役割をこなしていた	乳児全員が離れたところに座ったことを確認し、保育用品を移動させる時は必ず乳児が安全なコース					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況		事故発生要因分析											掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢 性別 特記事項	発生時状況			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																					
					人数	異年齢構成の場合の内訳							死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		玩具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援状況	その他要因・分析・特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析・特記事項	改善策								
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】				
1586	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園 9月 朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1						3	3	17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	5.他児から危害を加えられたもの		1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	朝の自由時間の職員の連携を密にする。エリヤ担当を決める。大型積み木など遊具の置き場など死角にならないように、定期的にチェックしていく。					1.定期的実施	2.定期的実施	1.定期的実施	随時			1.集団活動中・見守りあり	大型積み木が、片付けの時に一部死んでしまった。学年3クラスを自由使用していた。登園の遅い子の対応があった。	大型積み木も見えるように移動した。大型積み木を置き場所を改善した。	1.いつもどおりの子であった	登園時は、明るく元気よく友達と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで見つけた。見つけた友達同士なので、安心して遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	3.クラスフリーに使用していたので、入ると思っていた。見えていた。			次のシフトの後数分で入室する時間だった。その職員が大型積み木のところにいたので、仕事に入ると思っていなかった。フロアへの担当を決める、また入るときは、声をかける。
1587	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園 9月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92	37	26	29	3	3	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	足の形がX脚。小さい時から足が結まって頻りに転びだしている、指摘されていた。		1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故予防チェック表を再開して、定期的に点検できるように、チェック表の見直しをしている。		1.定期的実施	2.定期的実施	1.定期的実施	随時		3.いつもより活動的であった(理由を記載)	いつもより着きかなく午前中の保育でも、注意をされていた。	4.対象児の動きを見なかった	担当保育士が対応を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他も遊んでいたが、職員が気づいていなかった。	職員同士の見守りが不十分。	お迎えなどの状況変化に気づかずに、職員同士で声を掛け合って全体から目を離さないようにする。								
1588	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園 11月 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20				5	4	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	子どものケガ(骨折)に対する知識を持ち、あらゆる事故に関する想定		1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置		2.不定期に実施	1.定期的実施	12	2.不定期に実施	1.いつもどおりの子であった	広い廊下から、トランポリンをめぐって元氣いっぱい走りこんで来た。その後トランポリンを2回跳び、衝動を和らげるために敷いていたマットに倒れこんだ。	全職員が常に意識をもって危険箇所をすぐ改善する。	元氣いっぱい走りこんで来た。一旦子どもも落ちつきを落ち着かせる。				2.対象児の動きを見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	幼児少人数ずつに分かれて、いろいろな場所で遊んでいた。他の職員が気づかなかった。対象児の場所には、2名と担当保育士1名で、のびと遊べる環境であった。	活発な幼児がケガをしないよう見守り方を考慮し、見守り方を考える。							
1589	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園 11月 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上	10				4	4	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創)	2.顔面(口内)	顔面挫創、左記転倒	2.自らの転倒	職員一人一人が積極的に危機管理意識を持ち、共に細かい部分まで確認しながら積極的に予防し、安全な保育に努める。園内に保護教諭が、市の保健師と連絡		1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	安全面に欠ける物の確認	安全面に欠ける物の確認	1.定期的実施	1.定期的実施	4	1.定期的実施	1.いつもどおりの子であった	発表会の練習で遊んでいた。おもちゃの位置や、手に					対象児は担任の少後るを歩いていた。転倒した音を聞いて、担当保育士が対応していた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	クラス担任は1名で、他の職員も1名で、のびと遊べる環境であった。	クラスに戻る際にきれいに整理しておらず、対象児や同じグループの友達が手で歩かずに、手が必要か分からない、持つ必要があるときは安全面を確認							

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故発生時の要因分析										掲載更新年月日										
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面						
			月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	発生時状況	死亡 死因	負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		玩具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	1.遊具等からの転落・落下	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足距骨骨折	1.あり				2.不定期に実施	2.基準配置							1.定期的実施	2.定期的実施	12.定期的実施	3.机を片付けて、スペースを確保できなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	興奮状態であった								
1593	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28						2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足距骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1.定期的実施	2.定期的実施	12.定期的実施	3.机を片付けて、スペースを確保できなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	興奮状態であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室にはいたが、全体に目が届かなかった。	2.担当対象児の動きを見なかった	保育室にはいたが、全体に目が届かなかった。	普段より活発で注意散漫な面があるので、より保育者も当該児の行動に注意すべきであった。	昼食時間が迫っていたこともあり、子どもたちを焦らせたので、日頃より余裕配分が必要だと思われる

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況		事故発生の要因分析												掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1594	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨尺骨遠位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	なし	園庭に設置の雲梯で体育遊びをして落ちていた状況であった。危険な遊び方やふざけた状況であった。天然芝の園庭であったため、この大怪我を防止できずとも考えられる。	1.定期的	4.1.定期的に実施	4.2.不定期に実施	4.なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	天然芝の園庭の下にマットを敷く等は行っていない。園庭には雲梯、ジャミング、鉄棒があり、日常的に体育遊びが自由な反面、目撃しども考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は運動能力が高かった為、雲梯で遊んでいた事を確認しながら別の雲梯の補助にいた。その為落ちの様子を見出さなかった。落ちた後目撃した状況にある。	1.いつもお子様であった	興奮していた訳でもなく、やりすぎた訳でもなく、手を滑らせて、つかみ損ねたと思われる。	2.対象児の動きを見なかった	対象児は大きく運動能力があるので、行動にはその都度、「ゆっくり」「落ち着いて」等の言葉掛けが必要であった。	職員が危機管理を持って、お子様予防の注意喚起を行なった。
1595	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12.1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27							2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	左眼瞼挫滅創	5.他児から危を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	職員立ち位置を慎重に考慮すべきだった。	1.定期的	4.1.定期的に実施	4.2.不定期に実施	4.さらに安全性の高いハサミを検証する	より安全性を求めた2種類のハサミを取り寄せ、安全性や使い勝手など多方面から検証し、刃先プラスチックガードがついている商品に変え、個人持ちの教材から2・3歳児は園管理と変更した	1.集団活動中・見守りあり	コーナーあそびの内容に沿った配置が見受けられる。コーナーの定員数を確保し、ハサミを呼ばしてしまっ。お子様に対し事前の告知、徹底がされていなかった	1.いつもお子様であった	本児は他の遊びから、切り紙作業をしているグループのお子さまに興味を示して近づいた結果、事故が起きた。	2.対象児の動きを見なかった	朝のコーナーあそびの中で、職員が机について切り紙作業をしていたところ、他の遊びから切り紙作業に切り替えたお子さまが、机を近づいてきた瞬間、本児が興味を持って近づいたため、事故が起きた。	2.対象児の動きを見なかった	同じ保育室に2人職員がいたが、他児の話をしていた為、事故の場面は見なかった。	ハサミを使っている園児の危険管理が任にできなかった。	保育室内の環境設定(内容と人数)を改善する。予測を持って活動できるような危険管理を行なう。使っているハサミなど教材の見直しを行った。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面											
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策			
1599	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	10						2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準配置	事故予防マニュアルを作成し、職員で共通理解を図る。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	1	4.個人活動中・子どものみ	片付けの動線に、遊びたくなるようなものが無いように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	登園時及び登園後事故発生前まで、普段と変わらない様子であった。落下後も、大声で叫んだり泣いたりせず、自分で保育室前のテラスに座ってしゃべりしていた。	片付けの指示を全てがら、一緒に片付けていた。本児については見られていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児が片付けのために運んできた遊具を倉庫内で受け取り、整理をしていた。本児の動きについては見られていなかった。	クラスに職員が複数いる場合は、同じ動きをせず、臨機応変に子どもたちの動きを見ようとする。
1600	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20					2	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置 3.準配置	職員間の連携をとり、保育室内の遊びや戸外遊びの様子を守ったり指導したりするようにしているが、再度話し合い、職員の配置位置を考える。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	12	4.個人活動中・子どものみ	玩具や遊具を使った遊びの場の見直しをする。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	日頃からウレタン積み木を並べて、友達と乗り物や家をつくらせて遊ぶことが好きで、道や橋に上ることが多くなった。並べているウレタン積み木の上を歩いていて、バランスを崩して転倒した。	片付けの声を掛け、教師も一緒に片付けていたが、他の場所の片付けや他の児の動きに目をまわらなかつた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室にいた支援員がその場を観ていた。	年齢も低い。保育室を離れる場合は、近くの職員に声を掛けて安全を確認するようにする。
1601	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40					4	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	12	2.基準配置	マニュアルの「未然防止のポイント」をより具体化する。園内研修の内容を充実させ、未然防止の意識を高める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	12	遊び環境の設定の見直しに配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	遊び環境の設定の見直しに配慮する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	1.対象児と手を支えながら跳んでいました。最後の1つを跳ぼうとした時に、「一人で跳びたい」と伝えてきた。	対象児と手を支えながら跳ぶように支えていたが、最後の1つは手を離し、近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ、他の年長児に合わせた対応していたため、対象児を見えていなかった。	一人一人の心身の状態や性格、普段の動き等、職員が把握しておき、様々な危険予測をしていく。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	事故にあった子どもの状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																					
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		玩具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死因	負傷状況	受傷部位			マニキュアの有無																																								
1605	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	4.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29	0	0	0	8	9	12	0	3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置						・定期的に見直しを行い、年齢ごとの事故防止チェックリストを記入し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	・視診や家庭からの報告により、子どもの状態・体調の管理を行い、保育面で配慮(休息・室内遊び)を行う。	3.活動中・見守り	・個人			1.いっもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・職員間で声を掛け合い、危険防止の確認をする。			・保育所のヒヤリハットの見取図を活用し、危機管理意識を持って、危険な行動を予測し注意喚起に努める。 ・子どもの発達段階や特徴を職員全体が把握する。 ・事故防止のための活動別配慮事項について、理解する。
1606	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27								3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~2	1.基準以上配置	集団遊びの際、保育士は分散しており、広い視野で見ていた。	若干目が届きにくい場所だったので、再度職員の確認・意識を高める必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	職員が園全体を見渡せる場所に配置し、トラブルが起きた際にもすぐに対応できるようにする。	園庭は広く、施設的には問題ないと思われる。	3歳児の年齢にあった遊ばせていた中で、子ども達の動きは無理はなかった。	1.集団活動中・見守り	園庭は広く、施設的には問題ないと思われる。	3.対象児が鬼ごっこをしている姿を確認していた。その際、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見渡せるよう、職員同士は離れて配置していた。その際、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)。	見えにくい場所には特目を配らせ、怪我を未然に防ぐべきであった。		病気や怪我に繋がりに確認し、迅速な対応を行うように努める。				
1607	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	3.昼食時~おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準配置	保育室入り口付近の廊下から走ってきたが、保育者が見守っていたため。	走って来た時に、歩くように声をかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	頻繁	午睡準備で、机を置いた後、机を置く位置を確認していたため。	3.個人活動中・見守り	児童数が多く、室内に布団を敷いたため、机、椅子を移動しなければならぬ。	子ども達の活動的であった(理由を記載)	普段は走ることが少ないが、直前であったことがあり、嬉しさを予測できなかった。	2.対象児の動きを見ていなかった	2.対象児の動きを見ていなかった	園庭で他の子どもと遊んでいた。	本児の嬉しさに共感し、走ったことを見ていたため、机の脚につくことを予測できなかった。		嬉しさに共感する言葉や、歩くように促す。					
1608	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	37								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	3.子ども同士の突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~2	1.基準以上配置	クラスの半数くらいの子が廊下に行き、一斉に写真を撮ろうとした。写真を撮らなうとしていたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。	職員が子ども全体を見渡せる場所に配置し、トラブルが起きた際にもすぐに対応できるようにする。	職員が子ども全体を見渡せる場所には問題ないと思われる。	職員が子ども全体を見渡せる場所に配置し、トラブルが起きた際にもすぐに対応できるようにする。	1.集団活動中・見守り	クラスの半数くらいの子が廊下に行き、一斉に写真を撮ろうとした。写真を撮らなうとしていたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。	数名ずつ順番に写真を撮らうとしたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。	1.いっもの様子であった	廊下に飾ってある写真を見た。	2.対象児の動きを見ていなかった	廊下で写真を撮ろうとした。写真を撮らなうとしていたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。	園庭で他の子どもと遊んでいた。	クラスの半数くらいの子が廊下に行き、一斉に写真を撮ろうとした。写真を撮らなうとしていたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。	数名ずつ順番に写真を撮らうとしたため、前の子が飛び跳ねて見ようとした。										

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳					死亡 死因					負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニユアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策														
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																													
1609	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5.1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39		9	9	10	11		3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.遊具等からの転落・落下	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左両前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	2.基準配置	職員配置は通常通りだったが、2歳児が朝の合同ホール遊びに参加したのがこの週からまだ3日たった。低年齢児の動きに目を配る必要が多い中で年長児の遊び箱をするには配置人数が十分でなかった。	2歳児ホール遊びの時期に年長児の遊び箱の練習をするのであれば、保育体制や人数を見直す。	1.定期的	24	2.不定期に実施	毎日	2.不定期に実施	1~2/月		2.集団活動中・見守りあり	跳び箱の不具合や、設置場所等要因となる不備はなかった。	跳び箱の順番待ちの子も含まれており、跳び箱の隙間も狭い様子だった。	2歳児が合同保育に慣れるまでは、跳び箱の設置はしない等環境設定の見直し。また、落ち着かない雰囲気の時にも子どもに声をかけ一度落ち着いて取戻る環境を整えてから再開する。	1.いっもどおりの様子だった	跳び箱5段は普通の子で、その日もケガをしない様子だった。	1.対象児とマンツーマンでの様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びのコーナーにいたことがあった。	跳び箱はケガに繋がりにくいことを職員全員で再認識し、待っている子ども達の様子等は他のコーナーに気がついていないことがあった。	跳び箱はケガに繋がりにくいことを職員全員で再認識し、待っている子ども達の様子等は他のコーナーに気がついていないことがあった。	跳び箱はケガに繋がりにくいことを職員全員で再認識し、待っている子ども達の様子等は他のコーナーに気がついていないことがあった。	跳び箱はケガに繋がりにくいことを職員全員で再認識し、待っている子ども達の様子等は他のコーナーに気がついていないことがあった。
1610	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5.8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12							2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末接骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	2.基準配置	園児の引き戸の開閉についてヒヤリハットに記載していた	具体的な事例がなかったので、さらに保育室引き戸の開閉について事故防止の記載をする。	1.定期的	12	1.定期的	1	1.定期的	52	2.集団活動中・見守りあり	両開き引き戸を指ささないため、隙間の高さが高かった。引き戸が開閉する音が低く実情と合わなかった。	両開き引き戸を指ささないため、隙間の高さが高かった。引き戸が開閉する音が低く実情と合わなかった。	1.いっもどおりの様子だった	絵本を見ながらおむつ交換をしていたが、おむつ交換をしながら保育士がトイレに誘った。おむつ交換をしながらおむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。	3.対象児が来たところでおむつ交換を始めた	クラスの全員に絵本を見せておむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。	当該児と他児と一緒にドアを開けをしに間に合なかったこと、子どもがトイレのベンチに来るまで、保育士はおむつ交換等の動作はしない。ドアは固定している状態にする。	お部屋からトイレのある小ホールへ移動する際は、十分な見守りが出来るよう、園児数名がトイレのベンチに来るまで、保育士はおむつ交換等の動作はしない。ドアは固定している状態にする。	当該児と他児と一緒にドアを開けをしに間に合なかったこと、子どもがトイレのベンチに来るまで、保育士はおむつ交換等の動作はしない。ドアは固定している状態にする。	当該児と他児と一緒にドアを開けをしに間に合なかったこと、子どもがトイレのベンチに来るまで、保育士はおむつ交換等の動作はしない。ドアは固定している状態にする。				

No	概要				発生時の施設・事業体制								事故にあって子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日				
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制								教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあって子どもの状況 年齢 性別 特記事項	事故状況				事故誘因	ソフト面						ハード面						環境面		人的面			
					人数	異年齢構成の場合の内訳					その他				死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1615	平成29年12月28日	1.認可 6.認可保育所	6.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 5.4歳児クラス	11	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2.16.4歳 1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右足頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置 2.	これまで、事例研究として、誤飲の事故防止、保育室内の落下物改善、散歩先での立ち入り場所の特定など、安全対策研修や指導を実践してきたが、後述の「人的面」に記載のように「すぐに中止させること」や「子どもを落ち着かせること」のような、基本的かつ根源的な内容までを網羅したようになっていない。	大人の視線だけでなく、子どもが高ぶった場合注意が入りにくいことを踏まえて事例研修を検討していく。	2.不定期に実施	1.不定期に実施	2.不定期に実施	1.不定期に実施	1.不定期に実施	今回ハード面での問題は対象外と考える。	今回は対象外と考える。	7.その他	隊列の隊形や保育士の配置の問題はなかったと考える。	3.1.いっもより活動的であった(理由を記載)	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	先頭を歩いていた担当職員は、まもなく当該園児がふざけて歩き始めたときに振り向いて、ふざけて歩かないよう言葉をかけた。このとき全員を止めて当該児童に注意し、落ち着かせれば事故は防げたと思われる。	最後列にいた保育士は、あらく当該園児がふざけて歩き始めたときに、振り向いて言葉をかけた。このとき当該園児の手をとってせまるなど、直接的な介入をしていなかった。	・園児が公園で遊んだ後、帰路につきに当たり、担任は遊んでいた園児たちを集合させ、園児を落ち着かせたうえで、これから園に帰ること、2列に並んで歩くことなど、どの説明も経て、歩き始めた。上記一連の手順に問題はないものの、この園児が歩き始めたとき、園児の動きを注視し、落ち着かせれば事故は防げたと思われる。	・2名の保育士とも、当該園児のふざけた歩き方(危険行動)を認識したにもかかわらず、口頭注意にとどまり、直接的な介入(歩行停止)を行わなかったことが最大の原因である。危険行動が至近距離で行われたことから、口頭注意にも不十分であった。また、園児が次の行動(今回では公園遊びから帰路の散歩)に移る際には、十分に落ち着かせる(園児の気持ちの高ぶりを抑える)から次の行動に移ることの重要性について、全職員で共通の認識を培った。

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況					事故発生時の状況					事故発生の要因分析																		掲載更新年月日				
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故要因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等								死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策								
1616	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	120	4	15	20	21	21	22	7	10	35	27	8.7か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・臀部)	ミルクアレルギーによるアナフィラキシー	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	1.定期的 に実施	10回以上	1.基準 以上配置			1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	264			6.食事(おやつ中)			2.対象児とマンツーマンでの動きを促していた						・毎朝、授乳児の粉ミルクを、名前と量が記入してあるミルクに入れて準備していた。他児で100ml飲むという見かたからこの児のミルクと間違えた。調乳前に他児のミルクより160ml作り100mlに減らして授乳と調乳を行った。100mlのみが印象に残ってしまった。
1617	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9									2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第1趾末節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施		3.基準 配置									1.集団活動中・見守りあり			2.対象児の至近で対象児を見つめた						園長、主任、担当職員とこの事故を振り返り、玩具、環境を見直した。また、危険を回避できるように、常に子どもの動きや気持ちを把握し、先を見通した援助の重要性を確認した。

No	概要					発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの状況				事故状況					事故発生の要因分析												掲載更新年月日							
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制					教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面												
			月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
							0歳	1歳	2歳	3歳																													4歳	5歳以上	学童	その他
1618	平成28年12月28日	1.認可 6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77				16	13	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	特になし	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	特になし	7.その他	特になし	1.いつもの様子であった	ゲームに参加して二人三脚でスタートしたところ転んだ。 2.対象児の近くで対象児を見ていた	父親と二人三脚でスタートしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	勝たなくてと思う気持ちを持たせすぎではないか。	行事の内容の見直し(今後、親子競技は競争を取り入れず、親子ものを選びめるものを選択する。)				
1619	平成29年12月28日	1.認可 6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19			1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右中指末節骨折	5.他児から危を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	本来なら一番最後に入ってきた子どもが網戸を閉めたというルールとなっていたのに、2人の子どもの同時に網戸を閉めた行った	再度子ども達には一番最後に入ってきた子どもが網戸を閉めるというルールを伝える。ドアを閉める際にも他の子どもが確認してから閉める。	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	12	12	12	網戸の合部分にクッション性のものが付いていなかった	1.集団活動中・見守りあり	網戸を閉めるよう指示したとき網戸が閉まらなかつた	担任が話始めた時にはしっかりと担任の顔を見ようとして保育室内に走りだした子ども達に話をし、物事を頼む際は子ども名前を呼ぶようにする。	掃除が終わり、雑巾等の片付け・手洗いを済ませた子ども達が、お帰りの会が始まるのをピアノの前の場に座っていた。	お帰りの会を始めるために、ピアノの椅子など子ども達に声をかけた。	網戸を閉めるように指示した際に、最後に入ってきた子に伝えるのではなく、まずは誰か最後に入ってきたかを確認し、その子にも伝えるように伝えるべきであった	網戸や扉の開閉の仕方や約束事を1つ1つ丁寧に確認しながら伝える。物を直すことも子ども達に伝えていく。		
1620	平成29年12月28日	1.認可 6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	97			6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯の折れ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	足から滑らず、頭から滑っていたことに気づかず、注意喚起が出来なかった	他園から転園児だったので、マナーを個別に指導しておく	1.定期的な実施	4	1.定期的な実施	12	6	6	今回事業問題なし	1.集団活動中・見守りあり	4月は、子ども達も浮いていてケガの頻度が高いよう	4月は、職員を多めに配置するよう	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	いつもは、行動もゆっくりで、慎重な子どもだが、初めてのビックク後の外遊びということで、多少のぼせていたろう	近くには、ちょうど後ろ向きになって、他児の様子を見て泣き声で気付いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	初めての園庭でのビッククに浮かれていた	浮かれることを想定し、慎重に行動させるように指導するとともに職員も気を引き締めて見守る

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面					ハード面					環境面				人的面														
					人数	異年齢構成の場合の内訳					死亡 死因						負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1621	平成29年12月28日	1.認可 6.認可保育所	4 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	30	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	その他	4	3	17.5歳			1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む) 右前歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	3.	1.あり	1.定期的 実施	2.基準 配置	特になし	定期的に行っている事故予防に関する研修の他に、再発防止のために職員全員で、この事故も含め、ヒヤリハットの見直しを行った。	1.定期的 実施	12	1.定期的 実施	12	1.定期的 実施	12	特になし	現状を維持する。	7.その他	園庭は走りまわることには十分な広さがあり、凹凸もなかった。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	戸外で鬼ごっこをしている最中に、ことになり起こった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士3名が保育にあっていたが、鬼ごっこには外国人講師がおり、保育士はついていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが遊具についていたが、他の子の遊びの様子を守り、事故には気づいていなかった。	鬼ごっこには外国人講師を中心に行っていた。
1622	平成29年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	29			8	7	5	9		4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕2本骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期 実施	2.基準 配置	なし	改善点はない	1.定期的 実施	毎日	1.定期的 実施	毎日	1.定期的 実施	毎日	数週間前に藤棚のペンキ塗りを行い、その際、ロープの位置がずれ、そのままとしていた	常にいつも通りに、戻っているかを確認すること	1.集団活動中・見守りあり	なし	改善点はない	1.いつも通りの様子であった	活発な児童で、よく動いていました	4.対象児の動きを見ていなかった	2.3.の子たちが、高い遊具に登る様子で、そちらに注目していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2.3.の子たちが、高い遊具に登り、そのままとしていた	5歳児なので、大丈夫だと思っていた	互いに声を掛け合い、まばらな配置を行い、目が届かない場合は見守る。	
1623	平成29年12月28日	3.その他 13.子育て支援活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地内(園外・公園等)										15.3歳	1.男児	2名(双子)を同時に預かっていた	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施	1		再度マニュアルの周知及び徹底に努めるとともに、日常活動の注意喚起を行う。								3.個人活動中・見守りあり	児童の突発的な行動には注意し、たまたま児童が来たと見えて、児童の飛び出し等に十分配慮するよう注意喚起した。	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	提供会員及び依頼会員間で、連絡事項を伝達していた。		大人同士が話している間に、児童が錠を抜いて、自転車を倒した。	たまたま依頼会員が来たときに、児童の動きを確認し、引き継ぎするまでは自転車を倒しておくことについて注意喚起した。						

No	概要			発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析											掲載更新年月日					
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面				環境面	人的面			改善策								
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況					診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検			玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析・特記事項
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡	負傷	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	理由	具体的な何をしていたか	具体的何をしていたか	他の要因・分析・特記事項	改善策																
1624	平成29年12月28日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)									15.3歳	1.男児	2名(兄妹)を同時に預かっていた	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首変形骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	3	当該提供会員は養育費滞り、(3時間)の講義を受けているが、会員になってからまだ2か月であり、フォローアップ研修で再度事故防止の講習を受講する機会がなかった。	フォローアップ研修への参加を促す。							3.個人活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援の状況	提供会員が対象児の動きを見守り、おもちや準備や子どもの声かけ方について、提供会員が常務会員に確認し、周知する。	児童が落ちてしまうようになり、おもちやの準備や子どもの声かけ方について、提供会員が常務会員に確認し、周知する。	1.いつでもおりの様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	提供会員は対象児のそばにいて、対象児が興奮したときに走り出してしまう、事故につながった。	当該児童の妹と一緒に預かっており、提供会員1人の児童を見ていたため、とっさの対応が困難であった。	子どもは予想できない行動を取り、複数の児童を預かる場合など、注意喚起を行う。
1625	平成29年12月28日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	8.8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)									14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	1	今回の事故の内容を会員に周知し、安全に対する意識を今以上に向上させる。							3.個人活動中・見守りあり	環境面		児童がソファで遊んでいるのを提供会員が見ていたが、バランスを崩し落下。とっさにおもちゃを落とすような状況(対象児に接していた)	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	児童がソファで遊んでいるのを提供会員が見ていたが、バランスを崩し落下。とっさにおもちゃを落とすような状況(対象児に接していた)	事故当時、見守る提供会員がいる中で事故が発生したため、注意喚起を行うようにする。特に幼児の預かりについては、幼児が高い所に上った場合、提供会員が幼児の両脇を両手で支え見守る。			
1626	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60					4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	利用人数に対して指導員数が少ない。	火曜日は利用人数が多いので5人体制にすることにした。外での活動時は1人増加した。	1.定期的実施	12.3.未実施	1.定期的実施	12	定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	環境面	グラウンド周辺の道路や駐車場の通行量の多い時間帯に配慮しながら指導員を配置する。ボール遊びはグラウンドの真ん中で行う。	お迎えの時間帯のため危険な駐車場の付近に子どもを配置する。ボール遊びはグラウンドの真ん中で行う。	4.対象児の動きを見守っていた	2.担当者の動きを見守っていた	室内に2名配置し、残りを見ていた。手当が近かった室内の指導員がなかった。	グラウンドの広さに対して、また利用人数に対して指導員が少ない。	グラウンドに1名増加する。	
1627	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	42					3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ上部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	これからも対応マニュアルに沿って行く。	これからも対応マニュアルに沿って行く。	3.未実施	3.未実施	1.定期的実施	3	なわとびやアスファルトで行った。	1.集団活動中・見守りあり	環境面	グラウンドなど、転んでもけがをしないように見守っていた。	指導員一人で長縄を回して、転倒を防いでいた。(もう片方は柱に縛って)	室内に子どもたちの対応、グラウンドで遊ぶ子どもの対応を見ていなかった。	足が引っかかったときなど、こまめに休憩を入れ、長時間遊ばないよう声をかけていく。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																					
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策													
1628	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	1	20.8歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右ひじ骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	予防マニュアルの整備と研修の実施。	1.定期的実施	250	3.未実施	1.定期的実施	12	今回の事故は施設、設備に起因するものではないので、改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析、特記事項	改善策	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが、他児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしながら、見ていなかった。	支援員間のコミュニケーションを密にするとともに、活動の様子全体を確認できる体制を確保し、育成支援にあたる。				
1629	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	7	2	19.7歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕 上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1.基準以上配置	遊んではいけない場所での危険な遊び。	事故予防マニュアルを作成し、指導員間で共有、徹底。	1.定期的実施	12	48	48	48	48	事故の場所は、ピロティという場所。床の素材が固く滑りやすい場所であったため、事故に繋がりがり、怪我が大きくなったものと分析しています。	以前より、ピロティでは遊ばない、走らないと注意していたが、この事故後、柵を3セット新たに設ける。更に張り紙を促す。	3.個人活動中・見守りあり	外遊びへの移動の時間で、職員も児童が多くなり目が行き届かない状況だった。	移動が終わるまでは、下駄箱前とピロティに職員を必ず1人配置し、行き届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	宿題の時間終了後、外遊びに備え他児童と共にグラウンドへ行く準備(下足替え)をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの時間に備え、一輪車の調節をしていた。	支援員の配置はなかったが、わが目を離した時に事故が起きてしまった。	室内あそび、外遊びでの危険個所、危険な遊びについて全児童に注意、指導する。外遊びの際は下駄箱前とピロティには支援員が立ち、出入口及びピロティ付近では遊ばない様に指導する。
1630	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	6	2	18.6歳	2.女児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕 上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルが無く、危険箇所や対応等が共有が支援員間で出来なかった。	事故予防マニュアルを作成し、危険箇所や対応等について支援員間で共有、徹底。	1.定期的実施	12	48	48	48	48	中庭は、グラウンドのようには平らではなく、草が生えているため、転倒事故が起きたと分析しています。	中庭は一輪車を降りて、手で押して移動するように指導します。	3.個人活動中・見守りあり	毎週火曜日は放課後子ども教室が行われているため、遊べる範囲が制限されています。児童が狭い範囲に集中する為、一輪車で遊ぶ途中、中庭からグラウンドへ移動時に乗車したまま、一輪車から降りて押しながら移動するように必要だったと思われる。	支援員の配置や声掛けについて、支援員間で再度確認し、徹底。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	放課後子ども教室があるため、初めは中庭で遊び、放課後子ども教室終了後、中庭からグラウンドへ移動するように声を掛けながら安全を守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	放課後子ども教室が終わり、中庭からグラウンドへ移動するよう声を掛けながら安全を守っていた。	事故当日の支援員の配置は問題なしと思われる。日々練習をして上達して、支援員の手助けなくひとりで行けるようになっていた為、行動範囲が広がった。今後は、降り方等の指導も必要と考えます。	グラウンドへの移動時、一輪車から降りて、手で押して移動するように指導する。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者					年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童		その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1631	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72								7	3	21.9歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕しゃ骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	特になし。	特になし。	1.定期的実施	250	2.不定期実施	1.定期的実施	250	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	前の子が滑り終る前に滑り始めてしまい、その子よけるために飛び降りた。	すべり台の使い方を再度子どもたちと確認し、適宜声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	他の子どもたちに対応していたため、対象児を見られていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の子どもたちに対応していたので対象児を見られていなかった。	特になし。	指導員同士お互いの位置を確認し合い、常に子どもたちが向けるように目が行っているように今まで以上に十分注意する。
1632	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							4	3	20.8歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指の骨折と爪の損傷	8.その他	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置		日々の児童の遊びの様子や危険と感ずる遊びを職員間で情報共有し、未然に防ぐことのできるよう対応する。怪我の処置をした後も注意して様子を見る。	2.不定期実施	3.未実施	2.不定期実施		友達との遊びの中であった事故だったが、ハラスを崩しやすく転んでしまう状況なら施設点検に努める。	2.集団活動中・子ども達のみ	本児の性格を把握し、対応する。これは注意深く話しを聞くよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	事故が起きる前に友達と2人でしゃべっていたので、制止して注意をした。両者納得して、エアー(振り)ですと、注意は大人しくした様子であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童のお迎えや片付けを行っていた。		日々の児童の遊びの様子や危険と感ずる遊びを職員間で情報共有し、未然に防ぐことのできるよう対応する。注意した後様子を見る。				
1633	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							3	2	23.11歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置		戸外遊びに出る人数により支援員の配置人数の考慮をする。	1.定期的実施	12	3.未実施	1.定期的実施	12		1.集団活動中・見守りあり	ルールを守って遊ぶように指導の徹底を行う。戸外遊びに出る人数により支援員の配置人数の考慮をする。と共に関心した児童の声を聞く。	3.ももより活動的であった(理由を記載)	数人の子どもが滑り降りてくる様子を見つけた。	戸外には他にも児童がおり、他の児童が行ったためその児童を注意していた。見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は、屋内で見守り。もう1名は、保育士などの補助にあたり室内にいたため落下を見ていなかった。		屋外、屋内に限らず遊びのルールの確認、周知を行う。			
1634	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							7	1	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	急性硬膜外血腫	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準配置		遊具利用時の注意を更に強化する。また、支援員の指導が通るよう保護者との連携を深める。	2.不定期実施	2.不定期実施	2.不定期実施		1.集団活動中・見守りあり	滑り台で鬼ごっこをするように注意を更に徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	複数で鬼ごっこをしており、対応していた支援員が別の児童を注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周辺に他の職員はいたが、他の児童また、周辺全体を見ていた。		日頃注意が必要な児童の動きを支援員同士でこまめに把握する。					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策		
1635	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	7									1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	狭いスペースで、色々な遊びをしていたことも一つの要因。	遊びを絞り込んで、児童同士がぶつからない工夫をする。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	特に問題 なし。	特に問題 なし。	1.集団 活動中・見 守りあり	普通のコートではなく、狭い限られたスペースでサッカー遊びをしていた。	サッカースペースは面積が限られているが、広い校庭を借りるなどして密集する環境をなるべく減らしたい。	1.いっ もどおりの 様子であ った	2.対象 児の至近 で対象児 を見ていた	サッカーの審判として支援員がついていて、同時にボールを蹴ると一瞬の出来事だったため防げなかった。	他の遊びの場でも別の見守りを複数で行っていた。	限られたスペースの中で、色々な遊びを行ってこたえ、要因が思われる。	夢中になっ てしまっ た子ども たちも周 りがな くなら なっ てしま う為、支 援員の注 意、声か げが必 要。
1636	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31									4	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 に実施	1.基準 配置	これまで研修を受けたり職員同士で注意喚起を行ってきたが、今後とも同様に事故防止に努めていく。	これから継続的に安全点検を行うとともに、日頃からの危険な箇所や事故につながる物がないか注意していく。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	常にご事故 が起る可 もしれ ないとい う意識を 持ち、事 故の予測 をしながら 保育をし ていく。	1.いっ もどおりの 様子であ った	1.対象 児とマン ツマンの 状態(対 象児に接 していた)	縄を回していた厚生員も対象児童の所へ寄って「大丈夫か」と声をかけを。図書室にいた厚生員は対象児童の様子を確認。病院を受診したいと判断し、保護者に連絡。その後保護者はすぐに病院を受診。	どこで事故 が起って も支援員 の目が届 くように 、ま た、す ぐに 対応が できる ような 職員の 配置に していく。						
1637	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54									6	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	手指基節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未 実施	2.基準 配置	戸外遊び時は、児童全体に目が行き届くような職員配置場所とする	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	1	2.不定期 に実施	1	3.個人 活動中・見 守りあり	児童がクラブから築山まで走っていき、走って移動をしない様子を指導する。	1.いっ もどおりの 様子であ った	2.対象 児の至近 で対象児 を見ていた	対象児童や他の児童とともに築山へ向かっていた(至近距離にいた)	1.担当 者・対象 児の動き を見ていた (至近距離 にいた)	他の児童の遊びを見ていた	日常的に指導員間で打合せ等を行い、危険箇所等の共有をし、職員配置の改善を図っていく。					
1638	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	74									5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期 に実施	4.基準 配置	事故予防マニュアルを作成する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	地面が平らな箇所だったのでケガだったため、改善点はないように思う。	1.集団 活動中・見 守りあり	ケガにつながるような遊び方をしている子ども達に指導。	1.いっ もどおりの 様子であ った	3.対象 児から離 れたところ で対象児 を見ていた	のぼり棒のところで他の児童を見ながら、対象児の動きも見ていた。	2.担当 者・対象 児の動き を見ていた なかった	砂場のところで他の児童の遊びを見ていた。	ケガにつながるような遊び方をしている場合には、その都度指導をする。			
1639	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36									4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左肘複雑骨折	1.遊具等からの転落落下	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	職員配置等に問題はなく、ソフト面には起因しない。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	遊具に不備はなく、ハード面には起因しない。	1.集団 活動中・見 守りあり	見守りを行っており、環境面には起因しない。	1.いっ もどおりの 様子であ った	2.対象 児の至近 で対象児 を見ていた	対象児が遊んでいた鉄棒の前で、見守っていた。	2.担当 者・対象 児の動き を見ていた なかった	他の児童の見守りしていた。	職員が全ての児童の動きを把握し、偶発的な事故を防止することは困難である。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 状況 年齢	性別	特記事項	事故状況				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1640	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	66	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	7	5	18.6歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	児童館玄関の間で大型遊具付近に職員を配置する。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	学校遊具を安全に使用出来るよう確認を行うこととする。	1.集団活動中・見守りあり	怪我を少しでも痛みがあった場合は、すぐに職員に伝えるように児童集会で伝達した。また、活動中に適宜休憩を入れクールの時間を設けた。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	2.対象児の動きを見ていなかった	5.0mほど離れたブランコ付近、3.0mほど離れた鉄棒で見守っていた。		遊具を使用する際には、特に安全面に気を付けるよう配慮をする。	
1641	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	115								15	7	21.9歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	不定期に年1回だけではなく、定期的に数回行う。職員会議では、ヒヤリハットを基に事故発生を予想し、予防に努める。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	12	ちょっととした段差などがつまづきそうな危険箇所がないか点検した。	1.集団活動中・見守りあり	室内を走らないように児童への声掛けを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	館内全体を見てはいたが、別の部屋へ児童を誘導していた為、対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の清掃作業をしていた為、対象児の動きを把握出来なかった。		室内全体を見ながら、走っている児童がいれば声掛けを徹底する。		
1642	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	40								6	1	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	児童全体に対し、遊具の正しい使い方を行う。	1.定期的実施	52	1.定期的実施	12	1.定期的実施	52	引き続き定期的な安全点検を行い、安全確保に努める。	3.個人活動中・見守りあり	固定遊具使用時は遊具そばから離れず見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他遊具にて、他児への対応であった。(当該遊具からはおよそ5メートルの位置。)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで他児の見守りをしていなかった。		比較的腕力の弱い児童(1年生等)が遊具にぶら下がる際には、職員が側に付くようにする。	
1643	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7月 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	74								9	4	21.9歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期実施	数	1.基準以上配置	リスクマネジメントの研修を受講した。	2.不定期実施	2	2.不定期実施	2	2	使用するボールについて空気が過度にならないように点検をする。	4.個人活動中・子どものみ	小学校の余剰教室を利用した学童保育室のため、校庭で遊ぶ際に学童保育室の在籍児以外にチームをつくる。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりにボールをしていた	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	ドッジゲームを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゲーム中の子供の骨折事故を予測して対応できなかった。		校庭での遊びのため学童入室時以外が含まれていて、高学年の児童が多いため、球筋が普段より強かった。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析										掲載更新年月日																										
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者					年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面																												
					人数	異年齢構成の場合の内訳	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童	その他		死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策																		
1644	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	20								4	2	20.8歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	2.なし	1.定期的実施	2.基準配置				事故予防マニュアルを作成する。	2.不定期実施	2~3	3.未実施	2.不定期実施	200			安全点検に努める。学校との連携を深める。	3.個人活動中・見守りあり							見守りがより一層行きとよう。指導員のチームワークを高め、配置につける。	1.いつもどおりの様子であった				指導員は付近にいたが、サッカーに入っていたわけではない。サッカーやアスレチックで遊ぶ子どもを見ていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていた。	低学年と高学年が一緒に遊んでいた。	サッカーで遊ぶときに、子どもたちはシュートの力加減に気を付けるように言う。キーパーは無理せず強いシュートを避けてもよいことを伝える。	
1645	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	39								5	2	18.6歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕(ひじ)骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置				外遊びの際、支援員の死角がなくなるよう、配置箇所を改めた。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			ヘルメットとプロテクター(腕・足)を購入し、一輪車で遊ぶ際には装着させた。	1.集団活動中・見守りあり				「一輪車が早く上手に言いたい」と言って、積極的に活動していた。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)				事故の直前までの様子が見えなかった。本児が影に隠れてしまったため、事故発生時の様子は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に配置した支援員は少し離れた位置にいた事と本児の影で見えなくなったため、事故発生時は目撃していませんでした。	一輪車を利用する児童から目を離さないようにする。特にまだ慣れない低学年の児童の場合は、すぐ側に支援員を配置する。					
1646	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39								4	3	19.7歳	2.女児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置				今回の事例を職員全員で共有し、児童に注意徹底した。	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24			室内を含め危険予知を常に意識した育成支援を実施する。	1.集団活動中・見守りあり				全児童、全職員に向けて具体的な例をあげて注意喚起した。	1.いつもどおりの様子であった				2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童の横で作業の仕上げに取り組んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが工程ごとに児童を促して作業を進めていた。	出勤してきた補助支援員に当該児童の意識が強く動いてしまった。	全児童に向けて具体的な例をあげて注意喚起した。			
1647	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50								2	1	19.7歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	2.基準配置				1人での見守りの際、細心の注意を払う。危ないものは前もって片づける。	3.未実施	3.未実施	2.不定期実施				長クッションがあるとまだ遊びたかったので、使用禁止に片づけた。	1.集団活動中・見守りあり				危険を予測し声かけを行う	1.いつもどおりの様子であった				4.対象児の動きを見ていなかった	教室には担当支援員は一人だったので、他の作業をしながらの見守りとなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の様子を見ていた	言葉だけでなく、遊具を実際に取り上げて注意する。						

No	概要				発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析														掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面			人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他の要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他の要因・分析・特記事項	改善策							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学童	その他				
1648	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46							3	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	特になし。	十分な人員配置の為。	1.定期的 に実施	定期点検(2年毎)に受けており異常はない	2.不定期 に実施	利用の度に不具合に気づいたらその都度直したり、使用禁止等対応している	2.不定期 に実施	危険と思つた玩具については回収している	新築供用6年目で施設整備に不備なく、遊具も利用の度に点検している。	1.集団活動中・見守り	特になし。	人員配置が十分の為。	1.いっぽりのおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ている	一緒に遊んでいた為、該当児童も注意をしてみていた。事故発生時対応する際、個人整理し児童1枚で対応できるようにしている。日頃から支援員同士の情報共有と連携を密にし迅速な対応している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室で遊んでいる他の児童の様子を見ていた。	特になし。	職員はよく児童の活動を見ており、迅速な対応で対応しているため、改善策はない。
1649	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	69						7	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準以上配置	支援員の事故防止に関する研修の実施、児童への遊びのルール徹底。	2.不定期 に実施	10	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	一輪車の遊ぶスペースは、日陰が少なかったため、体力は消費していたが暑くない。	遊んでいる最中の声掛けや、上手に使用している遊具であっても、細心の注意を払って遊ばせようとする。	1.集団活動中・見守り	夏休みも後半になり、朝晩日もあったため、疲れたい児童も多く見られた。	1.いっぽりのおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ている	本児の近くに居たため、転倒した様子も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童も遊んでいたため、別の児童を見ている。	夏休みの夕方ということもあり、疲れもあつたように思われる。もう少し、休憩等もすませよう。	外回りについては、子ども人数が少なくても、お迎えの状況を把握したり、狭い中で数種類の遊びをするため、最低2人は支援員を常に配置する。				
1650	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	115						12	8	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	3.子ども同士の間際の衝突によるもの	2.なし	2.不定期 に実施	1.基準以上配置	事故の検証、ヒヤリハットの周知検討等、職員間での意識を高め、事故防止マニュアルを整備し事故予防に努める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	3.個人活動中・見守り	雨天続きであったため、担当1名が危険を伝えおりに遊ばせようとしていた状況。その他の支援者はホールや廊下などで活動場所に分散して、死角がないように配置されていた。	2.対象児の至近で対象児を見ている	児童が柵に登っている姿があったため、担当者1名が危険を伝えおりに遊ばせようとしていた状況。その他の支援者はホールや廊下などで活動場所に分散して、死角がないように配置されていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	死角がなくなるべくに配置されたため、事故発生時は分散されていた。	声掛けの指示だけでなく、降りる時に手を添えるなど最後まで安全確認をおこなう。						

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因		ソフト面			ハード面				環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1651	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	33									5	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1-2	2.基準配置	職員は全体的に見渡しながら、直ぐに駆け付けられる位置にいた。	スタッフ会議にて遊びのルールの再確認、危険箇所を子ども達に話し、子ども達に話をした。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	遊具自体には錆などは落ちていないが、定期的には遊具の状態を確認する。劣化した部分は発見した場合には早急に対応を行う。	1.集団活動中・見守りあり	運動会前などで体力が落ちていた可能性がある。	引き続き、適切な声かけを行って行く。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数不足というわけではなかった。落下後、すぐに駆け付けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故後、他の子ども達を見守る指導員、連絡対応をすばやく行った。	通常遊び方で鉄棒を使ったので、着地で危険な状態と予測することが出来なかった。	遊具の扱い方が未熟な児童や低学年に、鉄棒等を使用する際は特に見守りを怠らないように配慮する。
1652	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8									2	2	19.7歳	2.女児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、歯根歯折の疑い、上唇小帯裂傷	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	マニュアルの確認等危険予知を常時しておく。	事故予防の安全確認を追加する。	1.定期的に実施	2.3.未実施	2.不定期に実施	施設も新しく、今回は遊具等を使用していない状況。	1.集団活動中・見守りあり	活動の内容による場所の設置を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	活発な走りのため危険を感じ、場所を変えようとする指示があった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	場所移動するための体力が足りず、力加減がうまくいかず、子ども達の様子を見ていた。	支援員による見守りが十分でなかった。	支援員が活発な動きの際の危険性を再認識し、見守りを怠らないように配慮する。		
1653	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.5.おやつ時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38									5	4	18.6歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	今後、事故防止についてのマニュアルを作成する。		3.未実施	3.未実施	3.未実施	定期点検の実施。(点検項目・日時について明記していく)	1.集団活動中・見守りあり	活動場所が複数あるため、職員間の連携を強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	本児も含め、他児で遊んでいたおもちちゃん等の片付けをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おやつ前片付けの時間帯であったため、職員も片付けを見守る職員とおやつのおやつの用意をする職員とで、分かれていたため、目が行き届かなかった。	毎月の会議でヒヤリハットの報告・学習を行い、事故防止に努める。職員間の声を密に確認する。			
1654	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36									4	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準配置	次の遊びへ気持ちが移っており、急いでいる様子だったので職員の声掛けや補助等、安全での配慮。	学年・体格にあった遊具の使用、安全な使い方の方の指導。	1.定期的な実施	1.定期的な実施	1.定期的な実施	次の遊びへの気持ちが移っており、急いでいる様子だったので職員の声掛けや補助等、安全での配慮。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの心身の状態の把握の徹底。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の遊びの対応をしていた。	子どもたちの動きに合わせた職員配置。	子どもたちの動きを把握し、遊具の安全な使い方の指導を行う。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1659	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	26								3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施			今回の事故については特に問題はなかったと考える。	1.集団 活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1660	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43								5	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	事前に職員間で起こり得る怪我について注意すること。応急手当の確認をすること。		1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1		1	校庭や使用する道具に、怪我が起こり得る要因となるものが確認する。	1.集団 活動中・見守りあり	校庭で遊ぶ児童に対して、怪我なくできるように準備運動や注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.対象者が対象児の動きを見ていなかった	ほかのグループと関わっていたため。	ボール追いかけているところの児童だけでなく、ボールの無い場所の児童も見守りが必要であった。		
1661	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46								4	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施			今回の事故については特に問題はなかったと考える。	1.集団 活動中・見守りあり	児童各々が活動中は、敷敷に散らばって遊んでいるので、全体に目が行き届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児等を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守り等をしていなかった。	敷敷に散らばって遊んでいるので、全体に目が行き届くように支援員が適切な場所以て見守りをする。	
1662	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	140								8	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努めた。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施		特になし。	1.集団 活動中・見守りあり	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を促したが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引続き行っていく。

No	概要			発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面				環境面		人的面																			
					人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他							
1663	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50						4	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 1.定期的	1.定期的	1.定期的	特になし。	4.個人活動中・子どものみ	特になし。	1.いつもの様子がなかった	4.対象児の動きを見なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が一人でトイレに行った際に事故が発生した。	児童が一人でトイレに行った際に事故が発生した。	普段は利用しない場所を児童が利用する場合は、普段とは異なる事態を想定し、注意を促していく。							
1664	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	86						8	8	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(閉鎖性・左腕関節部)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 1.定期的	2.基準配置	安全管理・危機管理に対する知識を、マニュアルを読み込んで再確認する。	1.定期的 1.定期的	3.不定期に実施	2.不定期に実施	なし。	引き続き安全点検を行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	クラブでの手作りのランチの為、普段とは流れが異なっており児童の気持が落ちてきた。日常的には走らないこと、ジャンプしとの声掛けをしているが、徹底されなかった。	階段は歩くこと、ジャンプしとの声掛けの徹底。また、階段の中心にビールを貼って、進行方向に対して右側通行をうながす声かけも同様にしていた。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	育成室を見ており、対象児を出たところにある階段を移動中であつた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	育成室を見ており、対象児を出たところにある階段を移動中であつた。	なし。	階段を駆け下りる児童がいることを念頭に置き、階段は歩けよう声掛けを徹底していく。					
1665	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右首骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 1.定期的	2.基準配置	子どもが遊ぶ中での予測ができていなかった。	うんていの事故報告を職員全員に周知する。	1.定期的 1.定期的	毎日	2.不定期に実施	1.定期的 1.定期的	毎日	うんていの下にはマットを敷いてあり衝撃を緩和させる配慮があつたが、事故があつた。	学校と情報共有し、うんていの安全面について検討する。	3.個人活動中・見守りあり	うんていをする際に、指導員に声をかけてから行う習慣があつた。	休憩を一人ひとりしっかりとるように見守る。	3.いつもの活発な活動であった(理由を記載)	天気は曇りで比較的過ごしやすかった。鬼ごっこに混ざり遊んでいた。	3.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	本児は鬼ごっこをしたと見えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具を使っていた。	指導員がうんていを始めたことに気がつかなかった。	運動直後の気配が考慮し、言葉かけとその後の様子に配慮する。
1666	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	52						6	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1~2	2.基準配置	遊びに夢中になり、滑り台を下りた。	遊具の正しい使い方を指導する。	1.定期的 1.定期的	3	3	1.定期的 1.定期的	3	1.定期的 1.定期的	3.個人活動中・見守りあり	高い滑り台と低い滑り台と2種類あり、今回は低い滑り台からの転落で、油断していたのではない。	遊具を使った鬼ごっこは危険性が伴うものだが、鬼ごっこを遊ぶ際は子どもも意識して遊ぶよう心がける。	児童は、追いかけっこに夢中になっていたため、滑り台を降りてしまつた(バランスを崩した)	1.いつもの様子であった	1.対象児とマンソンの状態(対象児に控っていた)	支援員がすぐ近くで遊んでいたため、すぐさまの間で間に合つた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	けがの様子をみて、すぐに児童クラブに連絡してきた。	マラソン大会間近ということもあり、普段よりも高持ちは高くない。	支援員は、一緒に遊んでいても児童を危険から守るよう心掛けなければならない。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
					人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1667	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	31									4	2	21.9歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	亀裂骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	特になし。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	バスケットの試合を審判として見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児グループ以外の児童の動きを見ていた		特になし。		
1668	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	71									5	2	18.6歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首首骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	遊具の正しい使い方を指導する。	2.不定期に実施	4.不定期に実施	12.不定期に実施	12	遊具の正しい遊び方を指導する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具遊びは、危険性が伴うものだとおもっていることを児童にももちろんのこと、支援員も意識した上で指導するように心がける。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	対象児の動きを審判として見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児グループ以外の児童の動きを見ていた		子どもの行動を予測し、安全に配慮した立ち位置で対応する。	
1669	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外・公園等)	8.学童	14									3	1	18.6歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首首骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	5.基準以上配置	遊具使用の場合、適正な使用方法を指導する。細かい声かけ、声かけ、支援を要するようする。	1.定期的実施	12.定期的実施	12.定期的実施	12	遊具使用の適正年齢、身長など詳しく記載を希望。	適正な使用方法を事前に調べて遊ばせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	ひとりひとりの体格や運動能力に合わせた声かけを、時には使用をさせないようする。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	順番に一人で遊ぶ遊具であるため、対象児を見ていたが、姉の学年の女子が片手で遊んでいたため、できの悪い対象児が、スタートポイントで「両手でやれ」との声かけができなかった。落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊び(サッカー・ジャングルジム)に分かれていたため見ていなかった	対象児が活発で姉の学年(3年生)と同じくらい大きい。	年齢や運動能力にあう遊びを提案する。
1670	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	53									10	5	20.8歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	5.他児から害を加えられたもの 右耳の網膜の破れ	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	職員の見守りを強化し、2名体制で配置している。	1.定期的実施	48.定期的実施	48.定期的実施	48	廊下は、安全を確認する場所であることを徹底指導する。	1.集団活動中・見守りあり	児童の遊びの様子をみて、危険な場合は直ぐに止め、別の遊びを促す。また、「館の約束を守る」「人のいやがることはいらないこと」を児童に指導する。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	児童同士で遊んでおり、廊下が見えなくなった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれで場所を配置し立ち、見守りを行っていた		児童館で会ったことについては、保護者と今まで以上に緊密に連絡を取って行く。		

No	概要				発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外 施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制								教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面				人的面																
					人数	異年齢構成の場合の内訳						死亡 死因						負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置 3	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上																														学童 その他										
1671	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							10	4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施		2.基 準配置	3	体力の違う子供同士が鬼ごっこを行うと衝突が起すこりやすい	子どもの体力を把握し、学年別に実施する	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	雨天のため、微量の湿気があったのかもしれない	安全点検時に床の滑りを念入り確認する	1.集団 活動中・見守りあり	見守りを行っていても不意な衝突を防ぐことが難しい	どのような場面でも起る可能性があるかを確認する	1.いっ もどりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを行った程度である程度離れた位置で子供の様子を見ていた	2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童をみていた	走る子供を追い追う	子供の活動が見えやすい位置で見守っているが、全体を見渡す職員を配置する	
1672	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	53							5	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨顆状骨折	1.遊具等からの転落	1.あり	1.定期的 に実施		2.基 準配置	1	遊戯具で遊ぶ児童数に応じて、職員の見守りを配置している		1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	48	大型積木を2個重ね、その上に乗っていたためバランスが悪かった。	大型積木の使い方を児童に見直し、全員へ周知する。	1.集団 活動中・見守りあり	児童たちが自分で遊びを考へて実施して、職員の見守りを待っていた。	児童の遊びの様子を見て、危険な場合はすぐに止め、別の遊びを促す。	1.いっ もどりの様子であった	体調が悪いという様子で遊んでいなかった	3.対象 児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室内のベンチに盛り、室内全体を見守っていた	2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	各他の児童の見守りをしていた	職員勤務体制上、遊戯室の見守りは、利用者数に問わずとなっていた。	何かあった時にすぐ駆けつけるように、勤める体制を整えておく。	
1673	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50							4	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不 定期に 実施		2.基 準配置	12	注意喚起のため、現場でこまめに声をかける。また、時間に余裕をもって帰る支度ができるよう配慮する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	床(畳)の部分的な損耗	床(畳)の損耗状況に応じた補修の徹底	7.そ の他	注意喚起のため、現場でこまめに声をかける。また、時間に余裕をもって帰る支度ができるよう配慮する。	ふだんは落ち着きしつかりした児童であるが、この時、寄り支度ができず、室内を小走りに移動した。	1.いっ もどりの様子であった	2.対象 児の近所で対象児を見ていた	連絡帳を児童に渡し、児童の動きを見守っていた	1.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の様子も見守りながら、当該児童の動きを見ていた	夏休みも終盤となり、子どもも出てきた。	集会で、事故防止について子どもにも説明し、事故防止を意識させる。		
1674	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不 定期に 実施		1.基 準以上 配置	1	一定程度の職員研修等は行っているが、事故予防にの認識を深める必要がある。	施設や活動内容、参加人員等具体的な状況を踏まえたより有効な研修等を行い、職員意識の向上を図る。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	グラウンドの整備状況、スペース等は、特に危険性が高いものではなかった。	ボールを蹴るといふ動きをするに、児童の頭でイメージしたようには体が動かなかった。	基本に返りを蹴る練習から始める、集中力が切れないよう途中に入れないよう指導をする。	1.いっ もどりの様子であった	4.対象 児の動きを見ていなかった	校庭内で他に行っていたドッジボールや鬼ごっこを中心に見守っていた	2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	担当者同様、ドッジボールや鬼ごっこを中心に見守っていた	サッカーの当該児は少人数で活動しており、他の大人のドッジボールや鬼ごっこに比べ、見守り順位が低めであった。	事故発生の危険性はどこにいても高くないことを職員は改めて認識し、活動開始前に職員間で見守りの進め方を確認し、準備運動など子どもたちへの具体的な安全指導を進めていく。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故発生時の要因分析					抱載更新年月日																											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者			状況 年齢	性別	特記事項	事故発生時の要因分析																																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況				診断名 受傷部位	ソフト面		ハード面			環境面	人的面																									
1675	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	5	22.10歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	職員配置が万全ではなかった。	リスキマメンテナンスの研修を受講した。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.宅配BOXの配置場所を変更した。児童が入らないよう立ち入り禁止とし、認識しやすくカーテップで表示した。	2.宅配BOXの配置場所を変更した。児童が入らないよう立ち入り禁止とし、認識しやすくカーテップで表示した。	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・特記事項 宅配BOXの配置場所を変更した。児童が入らないよう立ち入り禁止とし、認識しやすくカーテップで表示した。	その他要因・特記事項 学童保育室の出入り口のため、靴が履き多く児童同士で接触する事もある。	特に低学年の児童が帰宅する時は、指導員が児童の注意深く見守るよう心がける。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りの帰宅行動をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	帰宅時のため多く移動しては、ランスを崩した対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰宅時で多くの児童や保護者との連絡等で対象児の動きを確認できなかった。	帰宅時のため玄関付近に混み合っていた。	対象児の動きを確認できなかった。	児童が接触しないよう指導員から児童に対して呼びかける。
1676	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	90	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	6	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	特になし	児童クラブのクラス分けに沿って基準の職員数を配置していた職員間で、安心・安全な状況下で遊びが実施できるよう、今まで以上に事故防止マニュアルを徹底し、研修の実施をより進めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	定期的な施設の状況を確認している。	1.集団活動中・見守りあり	児童たちは各々好きな遊びをしていた	防ぎきれない事故も発生するが、事故そのものが起こるという認識を忘れない事後の指導に努める。	1.いつもどおりの様子であった	児童については、普段と変わらず遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.0名程度の児童が同公園で遊んでいたため、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童も公園内にはいたため、他児の対応をしていた。	特になし	児童会館内と公園とで、職員が分かれ遊びを展開した中で、見守りの人数などは妥当だったと思われるが、事故への意識をより強く持ちながら、指導を行う必要がある。
1677	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	96	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	9	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りで、対象児も見えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りで、対象児も見えていた。	支援員が見守りをしていたが、事故が起こった。	見守りが必要な場面では、引続き支援を行うしていく。				
1678	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2.不定期に実施	1.集団活動中・見守りあり	今回の事故に関しては、直接問題は無かったが、落下に怪我を和らげる方策の検討をする。	児童各々が活動中に、数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が行き届くように支援員が適切な場所にて見守りをする。また、落下の可能性がある遊具等では、至近の見守りが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守り等をしていなかった	数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が行き届くように支援員が適切な場所にて見守りをする。また、落下の可能性がある遊具等では、至近の見守りが必要である。								

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面		ハード面				環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
1679	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	29	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折(全治一か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	児童数に応じた配置人数は市の基準を満たしていたが、支援員1名不足。当日は8名の支援員が出席していた。	支援員を基準通りに配置する。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	施設には不備はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童を含めた4人は園庭を走り回っていた。	児童の様子をよく把握し、事故が発生しそうな状況であれば、声かけ等を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	他児童と鬼ごっこをして走っていたところ、躓いて転倒し、左手首を地面につき痛めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	転倒した現場は見なかったが、すぐ気が付いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時に当該児童の付近にいた支援員1名のみだった。	児童の中で出来事なので、細かな声かけが難しい部分がある。	児童が小グループに分かれて遊んでいる際も、備りなく見守りを実施する。
1680	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	57								4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5基接骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	開始前の練習や、ウォーミングアップが不十分だった。	基準の職員を見守りに配置しているが、具体的な見守り方法に研修を行う。	1.定期的実施	12	3.未実施	12	3.未実施	12	1.集団活動中・見守りあり	普段から、ドッジボールなどの外遊びに参加する子に対しては、ひと声掛けするようにする。怪我にならないように、ボールキャッチングのアドバイスをする。	特に、久しぶりに参加する子には、ボールを渡す際に、コート中央で全体を見ている	1.いつもどおりの様子であった	いつも一緒に部屋で遊んでいたため、外遊びに出た。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	ドッジボールをしていたため、コート中央で全体を見ている	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々に遊んでいたため、子ども達を見ていた。	当該児童は、久しぶりの参加だったため、慣れるまでの間での特別ルール設定や経験に応じたグループ分けを配慮が必要であった。	事前の声かけを行ない、目を離さないよう、子どもを見守る。		
1681	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	107								14	20.8歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	5:30の基本保育終了と共に入園から広場に移動したが、広場で活動する人数が多かった。	指導員配置について見直す	1.定期的実施	12	3.未実施	1.定期的実施	広場で遊べる範囲を広げる	1.集団活動中・見守りあり	子どもが多かったため、子ども同士の衝突もやすかったのではないかと、広場で遊べる範囲を広げる。	1.いつもどおりの様子であった	異年齢の子も遊んでいたことあり、いつもより割合が多かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	指導員も参加していたことあり、対象児の動きを見つけていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	この日は、指導員が少なかったため、最低人数の一人で見つけていた。他の指導員は広場にはいなかった。	指導員が少なかった	適切な人数を見極め、その都度配置を考える。				
1682	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30								4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨(とうこつ)骨折及び右腕尺骨(しゃつこつ)脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	事故当時、利用児童30人に対し、4人の職員が勤務しており、市の基準(児童数20人以上以下35人未満の場合)を超えている。マニュアルを基に受傷時の対応方法を再確認し、引き続き研修等での技術向上を図る。	特になし	3.未実施	3.未実施	3.未実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	室内での運動活動について再検討し、安全面を踏まえ児童の希望に沿った活動ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と違う様子があった	2.対象児の動きを見ていなかった	審判としてドッジボールのメンバー全員が揃って見えていた	建物1階での対応をしていた	保護者の迎えを待つ時間帯は、児童の疲れがピークであり、注意力の低下等事故が起りやすい。この点を考慮した活動内容の日課の設定が必要である。	17時以降の過ごし方を検討し、比較的穏やかな活動を提案し、落ち着いてお迎えを待てるように工夫を図る。						

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1683	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17								3	2	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	特になし	子どもから目を離さないよう済むように、保育室内での準備をする	2.不定期に実施	3.3.未実施	2.不定期に実施	3.特になし	階段の入り口に簡易な扉などを設置することで、勢いよく駆け上がることを確認しないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内で走ること危険なため、職員が指導致していきことを確認した。	1.いつも通りの様子であった	走って来た児童とは別の児童とボールを遊んでいた。	4.対象児の動きを見なかった	おやつ準備のためから目が離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	1階にて保育を行った。ケンカが起き、対応していたため、対象児にぶつかって走って2階に行くのを見なかった。	特になし	おやつ準備中も常に保育室全体を見守ることができ、ケガなどを予想する。
1684	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43								4	2	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	2.なし	1.基準以上配置	開設から事故がほとんどなかったため、職員の事故予防に対する意識が十分でなかった。	・「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 ・「熱中症予防の普及啓発・注意喚起」の職員への周知 ・ヒヤリのハット作成・KYT(危険予知訓練)の学習	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	・じゅうたん敷きで靴下をはいて遊んでいたため滑ってしまっただけ ・裸足になるか上履きを履くことを周知	1.集団活動中・見守りあり	・子ども達は環境に慣れ、緊張感が低下し、職員への注意を聞かなくなった。 ・学校の見守り協力依頼 ・今後KYT(危険予知訓練)を遊びの中に取り入れていく	1.いつも通りの様子であった	他校から通学して緊張していたがクラブ活動に慣れてきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	・自由遊戯となり見守り支援していた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童を見ていた。	人数が多く活動が分散していたため見守りが行けなかった。また、送迎を兼ねていたことからあわただしく動いていた。	できる限り指導に専念できる体制をとる。また、障がいのある子(自閉症)や活発な子どもから、安全に見守れる指導員の人数の確保。		
1685	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16								4	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指末節骨折及び挫傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	今回の対象児のケガの要因にソフト面に関する要因はないため	1.定期的実施	2.1.定期的実施	2.1.定期的実施	6	トイレの出入り口ドアは開放し、万が一閉じても途中で止まる器具を設置	1.集団活動中・見守りあり	今回の対象児のケガの要因に環境面に関する要因はないため	トイレドア付近にたくさんの子どもが集まっていたため、興味本位で近づき、ドアの間に手を置いてしまった。	1.いつも通りの様子であった	他の子ども、ドアの閉めについて質問を聞いていたため対象児を見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	それぞれに担当の見守りをしていました。	ドアの閉めについて対応した職員は勤務終了後、子どもが行動について危険予知がなかった。	一か所に子どもが多く集まってきた場合は、ほかの先生を呼んで一緒に見るような対応をする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの状況				事故状況		事故発生の要因分析											掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因	ソフト面					ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的にしていたか	他の職員の動き 具体的にしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他							
1686	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30								2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指の骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	0.5	1.基準以上配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	2.不定期に実施	2.定期的に実施	2.定期的に実施	6		今回の対象児のケガの要因に施設や設備に関する要因はないため	1.集団活動中・見守り	その場を見守っていた担当支援員に、プレイルーム内でもいいように遊ばない、というルールを知らなかった。	1.いつものお様子であった	倒転をしない、というルールを知らなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見ていると、倒転をさせようとした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ、担当の見守りをしていた。	自由その場の時間帯でも、子ども自身がその場に適切な行動を判断できなかった。子どもがクラブでの生活を皆が安全に過ごすためのルールの認識が足りなかった			
1687	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	12							3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腕部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	子どもたちが公園内で走り回って、しっかりと見守り、危険回避できるように、視野を広げて見守る。マニュアルも本児童クラブの実情に合ったものを至急作成する。	子どもたちが遊ぶ中で、危険な場所など、個別に記載し、指導員が把握できるようにしている。また、月2回のミーティングにて情報を共有している。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	2・3	2.不定期に実施	1	子どもたちが遊ぶ中で、危険な場所など、個別に記載し、指導員が把握できるようにしている。また、月2回のミーティングにて情報を共有している。	安全点検を職員全員で、月1回行う。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこの際、遊具から降りようとして、足が遊具の握り手に引っかかり、左肩が下に落ちてしまった。	公園に出る前に、注意事項を確認してから遊ぶ。(約束事を確認)	土曜日だったので、母の仕事に行く時間に遅れてこられ、いつも通り、元気に登園し公園に出て遊んでいた。遊具に乗って小休止をしていたが、鬼の鬼が鬼の鬼を捕まえてきたので、慌てて遊具から降りようとしたときに、つま先が引っかかり、左肩から地面に落ちてしまった。	3.対象児から離れたところで見守っていた	落ちた遊具から、少し離れたところで、鉄棒を握り、砂遊びをしながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おもにブランコや砂遊びをしていた。	見守る場所によって、死角が生じる場所があるので、二人で見守る際には、対角線上に立ち向かい、危険箇所を見守る。	立つ位置によって、死角が生じる場所があるので、二人で見守る際には、対角線上に立ち向かい、危険箇所を見守る。	
1688	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準以上配置	当日、支援員1名が急な欠席で2名になった為。	欠席する時は連絡をとり、代わりに支援員を配置する。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	30	2.不定期に実施	50	段差を分かりやすく、緩やかにする。マットを置いていた。	2.集団活動中・子ども達のみ	支援員の見守り、声掛けが足りなかった。	支援員の見守り、声掛けを徹底する。	1.いつものお様子であった	早歩きをしていた。つまづいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	当日は、外遊びの日で、まだ終わっていない児童に学習を指導していた為、気がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの日で、まだ終わっていない児童に学習を指導していた為、気がなかった。	支援員の見守り、声掛けが足りなかった。	支援員の見守り、声掛けを徹底する。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策		
1688	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124									12	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	事故が起きたときに、マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施		特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	1.いっぽり様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	子どもも会以外の児童も多く運動場であり、支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	運動場利用者が多い場合のスタップの連携、個々への見守りについて、スタップ間で再度確認を行う。			
1689	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19									3	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五趾趾端線離開	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	事故が起きたときに、マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施		特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	1.いっぽり様子であった	2.対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	支援員が見守りをしている、注意を促していたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。			
1690	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22									4	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	室内保育で職員が配置に死傷が起きていた。	リスクマネジメントの研修を受講した。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	雨天時のため室内に児童が集中するが、合同保育中のため別の学童保育もいたため不慣れた環境であった。	雨天時は児童の行動を制限するように指導員を配置する。	雨天時で近くにいた児童が多かったが、普段と変わらない状況であった。	雨天時で多くいたが、普段と変わらない状況であった。	指導員がボールを追いかける交差するときに注意できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が交差するときに注意できなかった。	職員が配置に死傷が起きてしまった。	支援員から児童が多く室内に居る状況が明らかになった。危険の無い遊びを誘導する。				
1692	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33									5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨折・脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	ミーティングを通じて職員が安全への共通意識を持つよう取り組み、当日も適切な人員配置を確保していたが、突発的に事故が起きてしまった。	引き続きミーティングにて共有の徹底を高める。また、適正な人員を配置し遊具を積極的に研修などに参加し、安全への意識向上に努める。	1.定期的 に実施	293	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	朝礼台の上に乗っていたが、ランダムに落ちてしまったことになった。	物理的に朝礼台に乗れないよう、朝礼台にブルーシートをかき、ランドセル置き場とした。また、新まともスタップもこのことを共有した。	鬼ごっこに夢中になり、朝礼台に乗らないという約束を忘れて朝礼台に乗ってしまったことが事故につながった。	日頃から約束やルールを伝えていく。	1.いっぽり様子であった	いつも通りの様子であったが、普段やルールを守ることがある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	正規職員2名は、全体を目標位置にいて、当該児童がこぼれては把握していた。しかし、朝礼台に乗ったことには気づいていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	臨時職員1名が至近距離にいて、当該児童が横たわって泣いていることに気が付いた。	朝礼台に乗った瞬間を目撃している職員が、降りよう注意をすることができなかった。	職員は、子どもは突発的な行動をすること、一瞬で怪我をすることが多いことを常に念頭に置き、保育を行っていく。

No	概要				発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析													掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	事故にあった子どもの状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面				人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1693	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11								3	2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指骨折(2カ所)、創傷	3.子ども同士への衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数					1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	6	1			1.集団活動中・見守りあり	他児のトラブルが起き、支援員の1人がその対応に入り、遊びの見守りの1人で行うことになった。	半面ずつを職員として見守るだけでなく、もう一方の面でも他方が可能な範囲で確認し、確認しうにする。	1.いつもどおり様子であった	通常と変わらず来室し、活動を行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルの対応をしていたため、本児らに加わることができなかった。	当初は職員2名で半面ずつ見守りを実施していたため、近くで担当職員は対象児らを見ていたが、他面担当の職員がトラブル対応に入ったため、その空いた職員1名で見守ることになり、本児らの遊びの場から見守り距離が離れることになった。	対象児らは4方向から中央に向けてボードを滑らせていた。衝突が予想されたため、職員はよめるよう注意を行ったが、児童は嬉しかった。スピードは緩く児童も遊び慣れた遊具のため、職員が十分に行き渡らなかった。	遊具の遊び方を児童に十分に理解させ、ぶつかなうよう注意を払う。衝突の声をかけを確実に行い、細心の注意を払う。	